

Improving every life

3M ジャパングループ サステナビリティレポート

Growing our business
by enabling action
and impact on some
of humanity's greatest
challenges.

Our Vision

私たちのビジョン

3M Technology Advancing Every Company

3M Products Enhancing Every Home

3M Innovation Improving Every Life

3Mのテクノロジーはお客様のビジネスをさらに前へ進め、

3Mの製品は毎日の暮らしをより快適にし、

そして3Mのもたらすイノベーションは明日をもっと豊かにします。

Our Strategic Sustainability Framework

私たちの戦略的サステナビリティフレームワーク



Science for
Circular

サイエンスで循環型経済に貢献



Science for
Climate

サイエンスで気候変動に貢献



Science for
Community

サイエンスでコミュニティに貢献

初めに

編集方針

本レポートは、3Mで発行した『2020 Sustainability Report』から日本国内の、お客様・関連する企業の皆さま・事業所近隣の皆さま・そして社員など、多様なステークホルダーの皆さまに関わりの深い箇所の抜粋と、3Mジャパングループの2019年度のサステナビリティ活動に関する情報をわかりやすく開示し、活動の報告を通じてコミュニケーションを深めることを目的に発行しています。

当社では、企業の責任とは様々なステークホルダーの期待に応えることであり、その目標はサステナビリティすなわち持続可能な発展への貢献にあると考え、タイトルを「3Mジャパングループ サステナビリティレポート」とするとともに、より多くの方々への迅速な情報提供を目指しサステナビリティウェブサイトで、随時情報更新をしていきます。

本レポートはPDF版として発行し、作成にあたりましては各種のガイドラインを参考にしながら、当社の独自性を考慮し編集をいたしました。グローバルにおける3Mのサステナビリティへの取り組み詳細は、『2020 Sustainability Report』(参照：https://www.3m.com/3M/en_US/sustainability-us/)をご覧ください。

対象期間

本レポートに記載されている数値データは、2019年1月1日から12月31日までの実績を基に作成しています。ただし、日本国内における活動内容については、一部2019年以前のもの、ならびに発行直近のものも含まれています。

社名表記および対象組織の範囲について

本レポートでは、3M社を中心とした企業の全体像を示す場合は「3M」、3M Company (米国) を「3M社」と表現しています。基本的に「3M」および「3Mジャパングループ」の取り組みを紹介していますが、「3M社」の取り組みについても記載しています。本レポートで使用しているデータが対象とする「3Mジャパングループ」は次の5社です。

- スリーエム ジャパン株式会社
- スリーエム ジャパン イノベーション株式会社
- スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社
- スリーエム販売株式会社
- スリーエム フェニックス株式会社

※日本国内の環境パフォーマンスに関しましては、2019年1月1日から12月31日までの実績を基に、統合ISO 14001認証の対象事業所(本社、みなとみらいオフィス、札幌支店、仙台支店、東京支店、東京第二支店、横浜支店、浜松オフィス、名古屋支店、大阪支店、広島支店、高松オフィス、福岡支店、相模原事業所、スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社)のデータを公開しています。

コンテンツ

P2 初めに
編集方針

P3 リーダーシップ メッセージ
会長 兼 最高経営責任者
バイスプレジデント アンド チーフ サステナビリティ オフィサー
スリーエム ジャパン株式会社 代表取締役社長

P5 3M概要

P6 企業行動規範

P7 3Mバリューモデル
私たちのビジョン
私たちのバリュー
私たちの戦略的サステナビリティフレームワーク

P9 インパクトを推進
グローバルの活動報告
日本の活動報告

P22 イノベーションマネジメント

P25 環境マネジメント

P28 調達基準

P29 私たちの製品

リーダーシップ メッセージ マイク・ローマン

会長 兼 最高経営責任者／CEO

日常生活においても、また私が光栄にも トップを任されている会社においても 自分が世界に与えたいインパクトについて よく考えます。

3Mの事業の中心にある企業理念は、「明日をもっと豊かにします」で終わる当社のビジョンに明確に示されています。それはサステナビリティに対する私たちのコミットメントにも反映されています。したがってサステナビリティは、当社社員とお客様、そして私個人にとって非常に深い意味を持つ価値なのです。

3Mはサステナビリティにおいて、 長年のリーダーです。

当社は1975年に当時は画期的だった3P (Pollution Prevention Pays) プログラムを開始し、これまで200万トン以上の汚染を発生源で防いでいます。そして、私たちは「明日をもっと豊かにするため」にサステナビリティに継続的に取り組んでいます。例えば、過去20年間で、温室効果ガス排出を70%近く削減し、製造拠点の35%をゼロ・ウェイスト(廃棄物ゼロ)にしました。同時に、自動車の軽量化と燃費改善を可能にする3M™ グラスバブルズから家、企業、電子機器を省エネ化するフィルムまで、お客様がより持続可能な活動をする一助となる様々な革新的なソリューションを生み出すことに注力してきました。昨年だけでも、そのようなソリューションによりお客様が1,700万トンの排出ガスを削減できたことを喜ばしく思います。その規模は3百万台の車を無くしたことに匹敵します。

新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックは、グローバルの課題を解決するにあたりサイエンスとビジネスコミュニティが担う重要な役割を際立たせています。サイエンスを拠り所にした会社として、私たちが最も優先するのは社員と一般の人々の安全です。その中には、命に関わる製品を勇敢に働く医療従事者や救急隊員にお届けし、支援することも含まれます。

グローバルで共通してこのような経験をしたことで、サイエンスとサステナビリティを高め続けていくという私たちのコミットメントが一層、深まりました。この中には、3つの優先分野が含まれます。

- **サイエンスで循環型経済に貢献**：少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。
- **サイエンスで気候変動に貢献**：産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。
- **サイエンスでコミュニティに貢献**：サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

2019年、この新たな枠組みの一環として重要なアクションを取りました。

昨年よりサステナビリティを全ての3M製品に組み込んでいます。これは新製品に環境上または社会的な課題の解決に寄与することを義務付けたことを意味します。例えば、3M™ Smog-reducing Granules (スモッグ低減グラニュール)と全て再生材料から作られたスクラブファイバーを使ったスコッチ・ブライト™ スポンジ等、この価値を反映した新製品があります。さらに、ミネソタ州セントポール市の本社で使用する電力を100%再生可能エネルギー由来に移行し、同時に2050年までに70か国に及ぶ当社の海外事業の全てを再生可能エネルギー由来の電力にするコミットメントを行いました。また、サステナビリティを主導する活動を加速化するアクションも幾つか取りました。クリーン・エア・アジア(CAA)と提携し住みやすい都市を作る取り組みから、2025年までにスキルベースのボランティア活動を30万時間提供する新たな目標設定まで幅広いアクションが含まれます。



サイエンスの重要性への理解を 深める取り組みも継続しています。

グローバル版のレポートや本レポートを通じていくつかの例が紹介されていますが、人をワクワクさせる新たな取り組みを経てSTEM(サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学)教育の支援を行っています。私たちのトップエンジニアの一人であるDr. Jayshree Sethを3M初のChief Science Advocate(最高サイエンス擁護責任者)に任命しました。そして、Nobel Mediaと引き続きパートナーを組んでサイエンスを支援しています。2019年、ノーベル賞受賞者と学生が参加するイベントをアジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカで主催しました。

私たちのサステナビリティに対するコミットメントの中には、PFAS(ペルフルオロアルキル／ポロフルオロアルキル物質)関連の問題に積極的に対処することも含まれます。全てのことと同様に、健全なサイエンス、企業責任、透明性の原則に基づいて行動し、ソリューションの一端を担うことにコミットしています。PFASスチュワードシップのウェブサイト(https://www.3m.com/3M/en_US/pfas-stewardship-us/)で、当社が取っているアクションについて詳細をご確認ください。

世界が直面している気候、環境、公衆衛生上の課題は気が遠くなるような難題のように思えるかもしれませんが、克服できないものではありません――

協働的で、目的のある、サイエンスを基盤にしたアプローチを持って取り組んだ場合は特に、可能性が高まります。国連グローバル・コンパクト(UNGC)に継続的に参加することに加え、私は3MのCEOとして、当社の役割を果たし、当社のビジネスと社会的な大義のために他団体と連携し、これを「行動の10年」にすることにコミットしています。

ゲイル・シューラー

バイスプレジデント アンド チーフ サステナビリティ オフィサー／CSO

2019年は3Mにとってサステナビリティの アクションとコミットメントの年でした。

2018年11月に発表したStrategic Sustainability Framework(戦略的サステナビリティフレームワーク)と整合性を取り、取り組みの中核的柱である「サイエンスで循環型経済に貢献」、「サイエンスで気候変動に貢献」、「サイエンスでコミュニティに貢献」を充実させています。このような基盤となる動きがあったことで、2025年サステナビリティ目標に向けた新たなコミットメント、エンゲージメント、連携、進展で満ちた一年の活気あるスタートを切ることができました。活動のハイライトの一部を共有し、さらに今後数ヶ月、数年かけて取っていくアクションに対するコミットメントについて紹介できることを喜ばしく思います。

「**サイエンスで循環型経済に貢献**」するため、エレン・マッカーサー財団のCE100(circular 100)に参加し、3Mの社内で循環型経済ワー

キンググループを作って再生可能原料や再生材料の使用を増やしています。持続可能なソリューションを創造し、お客様がサステナビリティ目標を達成するお手伝いをするために協働をしてきた3Mの歴史を基盤に取り組みを積み上げています。

「**サイエンスで気候変動に貢献**」するため、引き続き自社のエネルギーフットプリントを改善しました。当社幹部がマドリッドで行われたCOP25と共にニューヨークで行われた国連気候行動サミットとClimate Weekに積極的に参加し、グローバルで気候変動の活動を行うリーダーの方々とベストプラクティスを共有する機会を得ました。

「**サイエンスでコミュニティに貢献**」するため、社員によるスキルベースのボランティアプログ



ラムである3M Impactの拡大を通じ、世界中で30万時間の奉仕活動を提供することにコミットしました。これは、STEM(サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学)分野と技能職の分野両方を対象にしたものです。

私は、サステナビリティが3Mの事業の中心であることを誇りに思います。

サステナビリティは製品、製造プロセス、および新しいテクノロジーを生み出すイノベーションを支えていること、そして、社員、お客様、パートナー、政府やコミュニティと協働することで、共通の世界的課題を解決し、私たちが追求する将来のビジョンを実現することができることを確信しています。3Mにおける様々な取り組みの進捗を共有し、世界中の暮らしをもっと豊かにするために皆様と連携していくことをめざしてまいります。

昆 政彦

スリーエム ジャパン株式会社
スリーエム ジャパンイノベーション株式会社
スリーエム ジャパン プロダクツ株式会社
スリーエム フェニックス株式会社
ケーシーアイ株式会社
代表取締役社長
代表取締役

サイエンスで循環型経済に貢献

- デザインソリューションで、より少ない素材による世界循環型経済を進めます。
- 調達から販売に至るまでのトレーサビリティを明確にして事業における循環型経済に寄与しています。

サイエンスで気候変動に貢献

- イノベーションで、脱炭素化、環境負荷を軽減、日本の気候変動の課題を改善します。
- 遮熱性のある3M™ スコッチティント™ ウインドフィルムの販売を通じて、エネルギー使用削減に寄与しています。

サイエンスでコミュニティに貢献

- サイエンスの力で、ポジティブな世界を共に創造します。

日本では、1996年より、子どもたちに科学の楽しさや不思議さを知ってもらえるよう、事業活動を活かした社会貢献を代表するプログラムとして、「3Mウィザードプログラム 子ども科学実験館」を開催しています。運営はすべて社員がボランティアで行っています。また、多様性に富んだ、インクルーシブなカルチャーを社内で醸成するために、上司が自らファシリテーションする3Mカルチャーに関する

対話型のワークショップや、社員と会社双方の成長を目指すためのリバースメンタリング・プログラムなど、社員一人ひとりが継続的に学べる数多くの能力開発プログラムを実施しています。

3Mジャパングループにとりまして、 サステナビリティとは、 事業活動そのものです。

社会の課題に対応し続けている数々のソリューションは、3M独自の「人を尊重する」企業文化が育んだ自由な発想と創造力と長年にわたり培ってきた多様な技術とノウハウ、開発力とあいまって生まれたものです。イノベーションや持続可能性を常に考慮して生まれた製品はエレクトロニクスからヘルスケアまで多岐の分野にわたります。

3Mジャパングループは、サイエンスで今後も事業を励み、愛情をもって、お客様、パートナー、コミュニティや社員などあらゆるステークホルダーとともに協働することで、さらなる持続可能な未来に向けた革新を続け、私たちの責任と役割を果たし、重要な課題の解決を加速する活動を続けてまいります。

3Mバリューモデル

自身の強みをお客様と結びつける3Mの手法から3Mのパワーが生まれています。

「テクノロジー」、「ものづくり」、「グローバル展開」、「ブランド」といった当社の基盤となる強みは私たちの中核をなしています。

3Mのバリューモデルでは、サステナビリティに強みに集中することが不可欠です。サステナビリティは当社のイノベーションの要です。私たちは、人類にとって最も重大な課題を解決する一助になるよう協働することでビジネスを成長させています。

当社のバリュー（価値）により私たちは団結し、その価値は世界中の各地域で共有されています。このような共通の理想的価値は、一つひとつのアクションで成長、発展を促し、評判を向上させ、インパクトを起こすために全ての社員がどのように行動をすべきなのかを具現化しています。

私たちのコミットメント

私たちにバリューモデルがあることで、3Mは企業の中でも独特な存在となり、マーケットでは他企業とは一線を画しています。このバリューモデルは、一つの会社としてのビジョン、基盤となる強み、取り組み中の重点項目、そしてバリューを結び付けています。



3Mのバリューモデルでは、サステナビリティに強みに集中することが不可欠です。サステナビリティは当社のイノベーションの要です。

私たちのビジョン

3Mのビジョンは私たちを鼓舞し、モチベーションを高めます。私たちの北極星として日々の仕事の道を示してくれる存在です。

3M Technology Advancing Every Company
3M Products Enhancing Every Home
3M Innovation Improving Every Life
3Mのテクノロジーはお客様のビジネスをさらに前に進め、3Mの製品は毎日の暮らしをより快適にし、そして3Mのもたらすイノベーションは明日をもっと豊かにします。

当社のビジョンは、私たちがどのように日々3Mのテクノロジー、製品、イノベーションを用いて、お客様のビジネス、毎日の暮らし、明日を——全てのお客様のためにさらに良くするのか。を表しています。私たちのビジョンの志は高く、将来を見据えて私たちを突き動かす原動力になっています。そして、3Mのブランドが意味するものは何なのかを日々思い起こさせてくれます。

私たちのバリュー

私たちのバリューは、行動規範で示されている「Be 3M (3Mであること)」(6ページ参照)を目指す社員たちの献身的な努力を通じて具現化されます——それは、インクルーシブ(包摂的)であり、他を尊重し元気づけ、そして、ダイバーシティとサステナビリティを提唱することによって達成を目指すものです。どうすれば私たちはできる限り最もインクルーシブな企業になれるでしょうか。その手段は、世界中から最高の人財を惹きつけることです。これが、一層ダイバーシティのある3M、より力強い3M、そしてさらにクリエイティブな3M、一層パフォーマンスの高い3Mに繋がります。社内の全ての人が最善の状態であられるように敬意を払い、元気づけ、チャレンジを与えることで、個々の社員を支援することが大事であると私たちは考えています。この考え方は私たちの会社としてのバリューに組み込まれており、力強く、インクルーシブなカルチャーがあることで実現が可能になります。明確な支援を受けて、3Mの社員はチームの一員として、及び会社全体の一旦を担って、それぞれのキャリアで成功することが可能となります。

私たちの戦略的サステナビリティフレームワーク

私たちのビジョンとバリューは、戦略的サステナビリティフレームワークを通じて、サステナビリティに対する私たちのアプローチの原動力となり特徴づけるものとなっています。この枠組みは、ビジネスの意思決定の方向性を示し、私たちが最も大きなインパクトを起こせる分野における戦略に指針を与えます。

3Mにとってサステナビリティを進展させることは一つの優先項目です。3Mのためだけではなく、私たちの全てのステークホルダーのためです。私たちは明確なコミットメントを設定し、私たちのサイエンスに対する熱意をもとに高い志のある長期的戦略を策定しています。これこそが、私たちの存在意義を達成することを可能にする、他とは一線を画す力を持つ所以だと考えます。3Mにとって最も重大で、地球と地球に住む人々によって非常に重要な課題に対処するためにサイエンスを基盤にしたアプローチを用いています。グローバル展開と多様なテクノロジーを基盤に、三つの重点項目に注力しています。

サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。

サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。



3Mにとってサステナビリティを進展させることは一つの優先項目です。3Mのためだけではなく、私たちの全てのステークホルダーのためです。

インパクトを推進

世界で最も重大な課題の解決に役立つよう取り組みを加速化。

私たちのコミットメント

1975年の画期的な3M Pollution Prevention Pays (3P) を始めとして、40年以上、サステナビリティの行動と方策において、3Mはグローバル企業の中で主導的役割を担っています。未来の世代のために世界をより持続可能にするためには、どれだけの行動が必要なのかを認識する中、私たちの目標は一層力強いものとなり、勢いを得ています。世界の最も重大な課題に対するソリューションを加速化するための、行動の10年に私たちは向かっています。会社として私たちに恩恵をもたらすことに注力するだけでなく、さらに多くのことを行っていくことにコミットしています。私たちにはコミットメントがあります。そして、世界にインパクトを与えるためにリソースと機能を活用するだけの力を持っています。私たちのステークホルダーは私たちにこのような期待を持っており、私たち自身も同様に期待しています。2015年には、2025年サステナビ

ティゴール (2025 Sustainability Goals) を立ち上げ、対象を3M内だけに留まらずお客様、サプライヤー、社会的インパクト以外の領域まで拡大しました。私たちが推し進める当該目標はコンプライアンスに留まらず、私たちの事業活動と製品が、どのように世界と世界中の人々の日々の暮らしに影響を与えているのか、を包括的に考慮するコミットメントの高まりを反映しています。今後10年間で、私たちの戦略的サステナビリティフレームワークの3つの柱において体系的な変化を作り出すチャンスがあると考えています。私たちの目標は、17の持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) を含む、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダ (the United Nations 2030 agenda for Sustainable Development) と足並みを揃えています。国連のSDGsとの整合性についての詳細は、グローバル版の

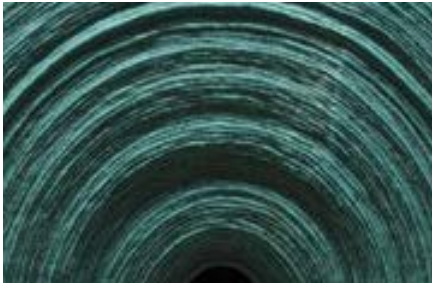
『2020 Sustainability Report』(参照 : https://www.3m.com/3M/en_US/sustainability-us/) の「About report」のセクションを参照してください。

私たちの戦略的サステナビリティフレームワークは、サイエンスを用いて日々の暮らしを良くするために役立っています。

またこの枠組みは、私たちのビジネス意思決定と戦略に加え、どのように現地のコミュニティとグローバルコミュニティのインパクトのために注力するのか、を示す指針となっています。そのため、私たちの2025年サステナビリティゴール (2025 Sustainability Goals) を、戦略的サステナビリティフレームワークの柱である「サイエンスで循環型経済に貢献」、「サイエンスで気候変動に貢献」、「サイエンスでコミュニティに貢献」のそれぞれと整合するよう調整しました。

サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。



- 3Mの新規製品化プロセスに投入される新製品は全てサステナビリティ・バリュー・コミットメント (SVC) を付けることを義務化し、各製品が社会的大義のためにどのようなインパクトを起こすのか表示する取り組みを2019年より開始。
- 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。
- 2025年までに30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ (のステータス) を達成する。
- 2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。
- 2025年までに世界的な水の使用量を売上対比で更に10%削減する。
- 2025年までに、3Mが製造活動を行っていて水ストレス (日常生活に不便のある状態) や水不足にある拠点の100%で、コミュニティ全体規模の水管理への取り組みに従事する。

「サイエンスで循環型経済に貢献」の目標	国連 SDG
製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。	12 つくる責任 つかう責任 12.5
30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ (のステータス) を達成する。	12 つくる責任 つかう責任 12.5
より持続可能な材料と製品を開発するために投資を行い、お客様が環境目標を達成するお手伝いをする。及びサステナビリティ・バリュー・コミットメント。	8 持続可能な 消費と生産 8.4
	9 持続可能な 産業とイノベーション の推進 9.4
対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。	12 つくる責任 つかう責任 12.2 and /or 12.7
世界的な水の使用量を売上対比で更に10%削減する。	15 陸の豊かさも 守ろう 15.2
3Mが製造活動を行っていて水ストレス (日常生活に不便のある状態) や水不足にある拠点の100%で、コミュニティ全体規模の水管理への取り組みに従事する。	6 安全な水と トイレを 世界中に 6.4
	6 安全な水と トイレを 世界中に 6.5 and /or 6.8

サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。



- 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。
- 2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。
- ビジネス成長を達成すると同時に、2025年までに温室効果ガス排出量を対2002年比で50%以下にする。
- 再生エネルギーの使用率を2025年までに全体の50%、2050年までに100%に増やす。

「サイエンスで気候変動に貢献」の目標	国連 SDG
純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。	7 持続可能な エネルギー 7.3
再生エネルギーの使用率を全体の50%、2050年までに100%に増やす。	7 持続可能な エネルギー 7.2 and /or 7.A
ビジネス成長を達成すると同時に、温室効果ガス排出量を対2002年比で50%以下にする。	13 気候変動に 適応する 13.1
お客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。	13 気候変動に 適応する 13.1

「サイエンスでコミュニティに貢献」の目標	国連 SDG
作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人対象に提供する。	3 持続可能な 消費と生産 3.C
	8 持続可能な 消費と生産 8.8
暮らしを改善し、社会の最も厳しい課題の解決に寄与するよう3Mの社員による30万時間のスキルベースの奉仕活動を提供する。	12 つくる責任 つかう責任 12.A
	17 パートナーシップ で目標を達成しよう 17.16

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。



- 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。
- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。
- 2025年までに個人と組織としての力を高めるために様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。
- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。
- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの奉仕活動を提供する。

「サイエンスでコミュニティに貢献」の目標	国連 SDG
教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。	1 貧困をなくそう 1.4
	2 質の高い教育を みんなに 2.1
	4 質の高い教育を みんなに 4.4/ 4.5/ 4.C
	8 持続可能な 消費と生産 8.6
	10 人や国の不平等を なくそう 10.2
	11 持続可能な 都市とコミュニティ 11.6
	12 つくる責任 つかう責任 12.A
個人と組織としての力を高めるために様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。	8 持続可能な 消費と生産 8.5
多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。	5 ジェンダー平等を 実現しよう 5.5
	10 人や国の不平等を なくそう 10.2



グローバルの活動報告

2019年、より持続可能な材料と製品の開発に向けた投資目標を強化し、新製品開発プロセスに投入される新製品には100%、サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を付けることを義務化することで、お客様が環境目標を達成するお手伝いをしています。私たちのR&Dプロセス、ブランド、お客様とサプライヤーのマインドセットにサステナビリティを組み込むことによって、3Mの成長を新たな段階に押し上げ、当社のビジネス、地球、一人ひとりの暮らしを良くするという私たちのコミットメントを進展させることができます。

そして、2019年、再生エネルギーの使用率目標を2025年までに25%、2050年までに50%までにできるよう引き上げました。また、新たに「サイエンスでコミュニティに貢献」の目標を加え、2025年までに30万時間のスキルベースの奉仕活動を世界中で提供するようにしています。詳細については、グローバル版の『2020 Sustainability Report』(参照：https://www.3m.com/3M/en_US/sustainability-us/) 特集「Flipping the switch on renewable energy」、「Making an impact around the world」を参照してください。



サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。

- 2019年の新製品についてサステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を付けることが100%達成でき、目標の100%に到達した。
- 売上対比で製造過程の廃棄物を12.6%削減し、目標の10%を超過した。
- 埋め立て廃棄物ゼロ35.4% (69の製造拠点)を達成し、30%の製造拠点とした目標を超過した。
- 550件以上のサプライヤー評価を終了：対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じサプライチェーンのサステナビリティを向上するコミットメントを維持。
- 売上対比で水効率を5.76%向上：10%削減の目標に向けて進捗中。
- 水ストレス(日常生活が不便な状況)／水不足のエリアにある拠点(18か所)の100%と関与：コミュニティの100%を関与させる目標を維持。

サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。

- 売上対比でエネルギー効率を3.2%改善、目標の30%改善には未達。
- 再生エネルギーのフットプリントを電気使用総量の32.6%まで増加：2025年までに50%、2050年までに100%にする目標に向けて進捗中。
- スコープ1とスコープ2の排出量がベースラインを68.1%下回る：ベースライン[※]の50%にする目標を達成。
- 5830万トン以上の二酸化炭素に相当する、お客様の排出量を防止：2億5,000万トンの目標に向かって進捗中。

※ ベースライン2002年：その他全てベースラインは2015年

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

- 124万件のトレーニングを提供：トレーニング500万件作成の目標に向かって進捗中。
- 世界中で寄付(giving)投資7,330万ドル、世界中の寄付プログラムに引き続き投資をする目標を達成。
- 個人と組織としての力を高めるための様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する目標に対して、グローバルで研修参加率59%以上の進捗。
- マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する目標に対して、32.6%から41.8%まで拡大。
- 世界中で20,600時間のスキルベースの奉仕活動を提供、30万時間の目標に向けて進捗中。

日本の活動報告

サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。

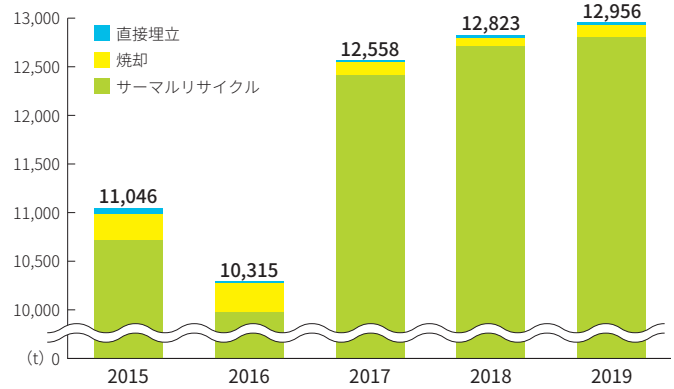
- 2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。

廃棄物発生量の削減

3Mジャパングループの製品には多品種少量生産という特徴があり、新製品比率も高いことから設備や工程条件の変更によって生じる廃棄物が少なくありません。このため3Mジャパングループでは、ごみの削減を目指して、まず廃棄物の発生を可能な限り抑制し、それでも発生した廃棄物については再資源化を図ることに長年取り組んできました。具体的には、製品収率の向上を追求し、全事業所においてリユース・リサイクルを徹底するとともに、焼却時の熱を回収・利用するサーマルリサイクルなどによって再資源化される廃棄物の割合を増やしています。

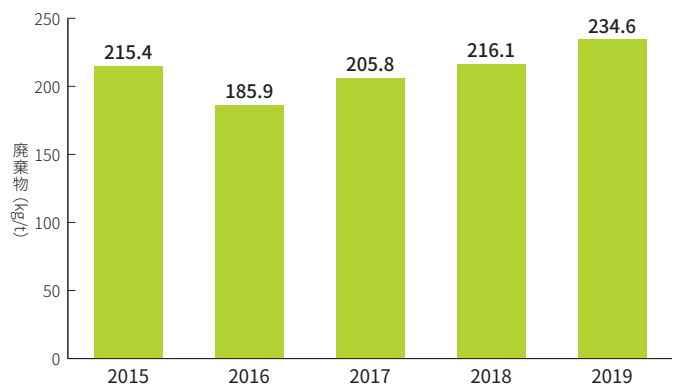
2019年度の廃棄物発生量は、前年度の12,823トンから12,956トン(前年

廃棄物発生量(トン)



度比101.0%)とわずかに増加しました。廃棄物については、サステナビリティ目標の一つとして、2016年度から新たに基準年を2015年としたET25 (Environmental Target 2025)を開始しました。ET25では、処理方法にも注目し、特に単純焼却および埋め立て処理される廃棄物に関して、製品生産量あたりの廃棄物発生原単位として「2015年対比で2020年10%減とする」ゴールを設定しています。詳細については、『環境マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」(27ページ参照)をご覧ください。

廃棄物発生量(生産高原単位)



- 2025年までに30%以上の製造拠点で埋め立て廃棄物ゼロ(のステータス)を達成する。

廃棄物最終処分量の推移

3Mジャパングループの2019年度の廃棄物最終処分量(直接埋め立てと埋め立て処理される焼却灰)は、113トン(前年度比112.7%)でした。内訳は、直接埋め立て廃棄物が23トン、埋め立て焼却灰が90トンでした。前年度からの増加要因として、廃棄物の海外での引き取りが困難になったことが挙げられます。今後も新たなリサイクル処理先の開拓に加え、さらに焼却廃棄物の発生を減らすプログラムを推進していくことで、直接埋め立てを減らしていくことを検討しています。

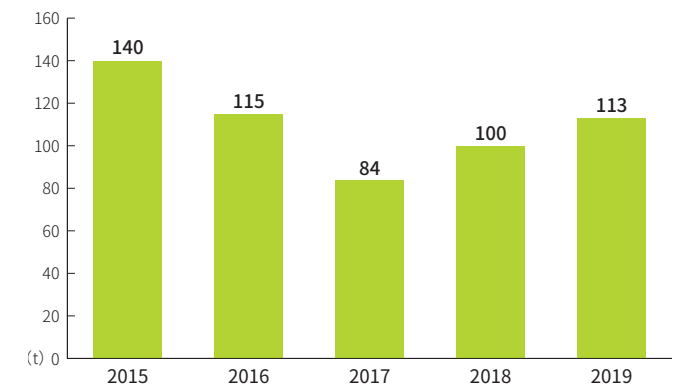
埋め立て廃棄物推移

		2015	2016	2017	2018	2019	備考欄(対前年度比)
直接埋立廃棄物量	Ton	57	11	13	25	23	93.9%
埋立焼却灰(内)	Ton	83	104	71	76	90	118.8%
最終処分量	Ton	140	115	84	100	113	112.7%

廃棄物 環境法令への対応

3Mジャパングループでは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(第十五条の二の三第二項)にもとづく維持管理情報を公表しています。

3Mジャパングループの埋立廃棄物(トン)



詳しくはウェブサイト(https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/sustainability-jp/policies-reports/)をご覧ください。

日本の活動報告

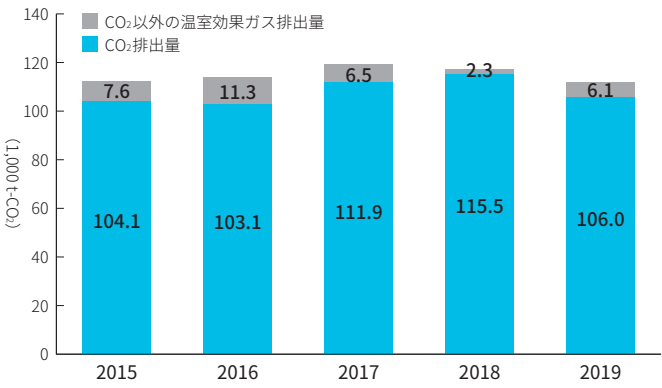
サイエンスで気候変動に貢献

- 産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。
- ビジネス成長を達成すると同時に、2025年までに温室効果ガス排出量を対2002年比で50%以下にする。

温室効果ガスの排出削減

2019年度の3Mジャパングループの温室効果ガス総排出量は、CO₂（二酸化炭素）と、製造プロセスから排出されるその他の温室効果ガス（CO₂換算）の合計値で前年比95.1%となり、4.9%削減を実現しました。京都議定書で削減対象ガスに指定されたPFCについては、3Mジャパングループは3M社からPFC製品を輸入・販売していますが、一部は出荷単位の変更に伴う充填作業後に出荷しています。その工程で、PFC製品の一部が大気へ放出されるため、蒸気回収設備を設置し、放出ガス削減に積極的に取り組み続けています。また、お客様が使用されたPFC製品をリサイクルする取り組みも行っています。

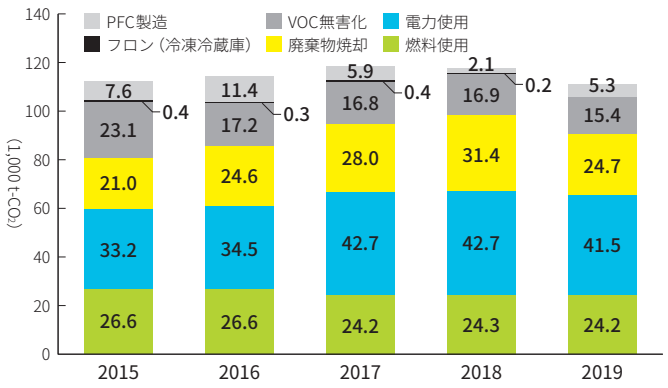
温室効果ガス排出量 (1,000トン-CO₂)



カテゴリー別での温室効果ガス排出削減

2019年度に3Mジャパングループから排出された温室効果ガスのうち81%がエネルギー消費（燃料および電力使用）と廃棄物焼却に起因しています。3Mジャパングループでは、サステナビリティ目標の一つとして、2016年度から新たに基準年を2015年としたET25（Environmental Target 2025）で、「廃棄物発生量原単位を2015年対比で2020年10%減とする」、「使用エネルギー原単位を2015年対比で2025年までに30%減とする」を掲げています。詳細については、『環境マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」(27ページ参照)をご覧ください。

温室効果ガスのカテゴリー別排出量 (1,000トン-CO₂)



山形事業所



岩手事業所

日本の活動報告

サイエンスで気候変動に貢献

- 産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。
- 2025年までに純売上に連動してエネルギー効率を30%改善する。

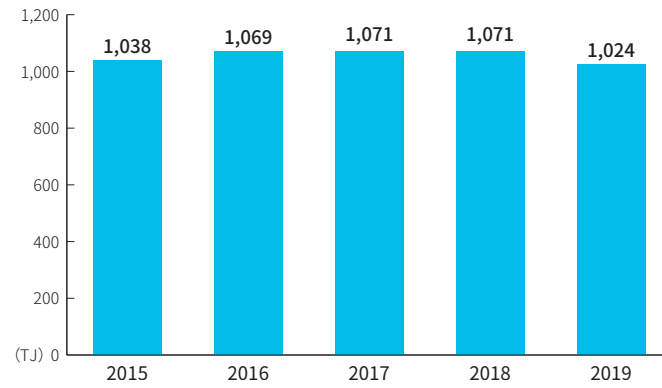
エネルギー削減への取り組み

3Mジャパングループは1970年以降、エネルギー削減に継続的に取り組んでいます。現在は、①エネルギー削減を推進する製品製造プロセスの導入、②エネルギー効率の優れた施設・設備への転換、③社員の自発的な提案によるエネルギー効率改善活動の3点をテーマにエネルギー効率の改善を推進しています。2019年度の使用エネルギーは、主要エネルギーである電力（前年度比95.6%）は前年を下回りましたが、天然ガス（同比 102.9%）、LPG（同比 122%）の消費量は前年度を上回りました。また、灯油（同比 99.4%）はほぼ前年並みでした。全エネルギー使用量は熱量換算で1,024TJ（テラ

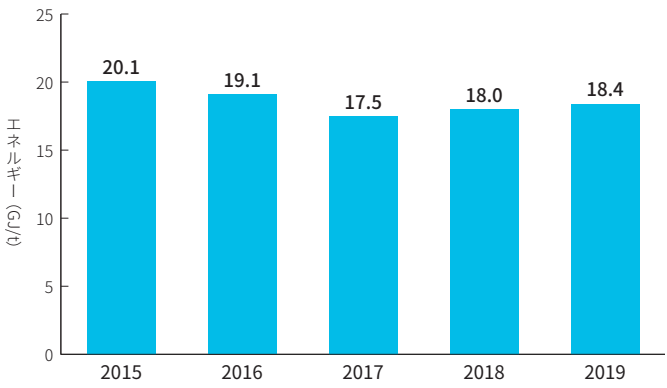
ジュール）（同比95.6%）となり、前年を下回りましたが、原単位では前年度比102.6%で増加となりました。これらの値は、各製造事業所での省エネプログラムの取り組みにより実現しました。使用エネルギー原単位に関しては、サステナビリティ目標の一つとして、2016年度から新たに基準年を2015年としたET25（Environmental Target 2025）で、「使用エネルギー原単位を2015年対比で2025年までに30%減とする」ゴールを設定しています。詳細については、『環境マネジメント』の「日本のサステナビリティ目標とET25」(27ページ参照)をご覧ください。

				2015	2016	2017	2018	2019	備考欄 (対前年度比)
インプット	エネルギー	電力	MWh	74,411	78,058	81,087	81,603	78,024	95.6%
		灯油	kl	8,685	8,760	8,031	7,874	7,826	99.4%
		天然ガス	Km ³	1,737	1,681	1,678	1,652	1,700	102.9%
		LPG	Ton	42	34	34	6	7	122.0%
		ガソリン・軽油	kl	444	440	413	436	407	93.3%
		全エネルギー合計	T-Joule	1,038	1,069	1,071	1,071	1,024	95.6%
	材料	用水	1,000m ³	477	432	474	448	414	92.6%
		原材料（除：溶剤）	Ton	59,740	59,101	54,877	53,531	49,506	92.5%
		投入有機溶剤	Ton	6,721	6,669	7,209	7,032	6,503	92.5%
		包装資材	Ton	9,625	9,550	10,323	10,070	9,312	92.5%
		原材料合計	Ton	76,086	75,320	72,409	70,633	65,321	92.5%

使用エネルギー (TJ)



使用エネルギー（生産高原単位）



- 2025年までにお客様が3Mの製品を使うことで二酸化炭素2億5,000万トンの排出に相当する温室効果ガスを削減するお手伝いをする。

事業部・販売部の取り組み

3MジャパングループではISO 14001活動の一環として、製品事業部、製品販売部が環境活動プログラムの中で、環境ソリューション製品の取り扱いに力を入れています。

2019年の活動では、9つの製品事業部・販売部がお客様の二酸化炭素排出削減に効果のある環境ソリューション製品を環境活動プログラムとして取り組みました。

日本の活動報告

サイエンスで気候変動に貢献

産業の脱炭素化のためのイノベーションを起こし、世界的気候課題のソリューションを加速化し、自社の環境フットプリントを改善する。

関連する3Mジャパングループその他の活動

大気汚染防止への取り組み

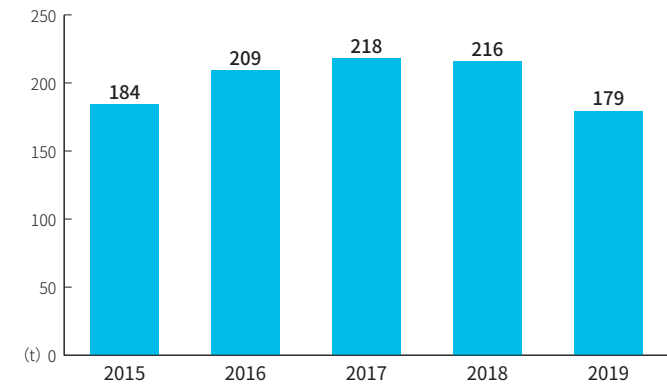
有機溶剤の排出量削減と無害化を重点課題としています。

3Mジャパングループの製品には、製造工程で様々な有機溶剤を使う場合があり、VOC（揮発性有機化合物）の排出量削減を重点課題の一つとして位置づけています。3Mジャパングループでは、有機溶剤が大気中

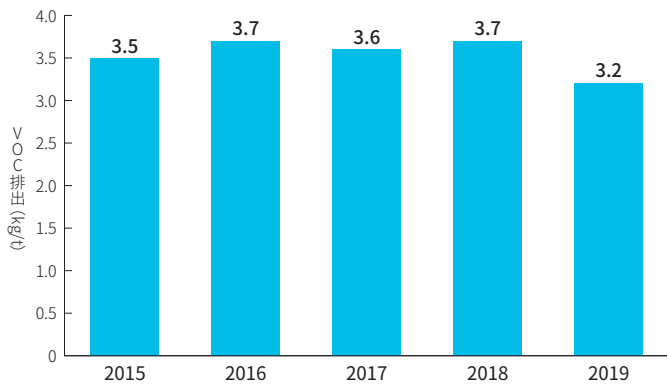
溶剤回収装置・溶剤排ガス無害化処理装置の導入とエネルギー再利用

生産工程の中で使用された有機溶剤を適正に処理するため、溶剤回収装置や溶剤排ガス無害化処理設備などを設置し、VOCの大気中への放出を抑制しています。また、溶剤排ガス無害化処理設備では有機溶剤の大気放出を抑制するだけでなく、燃焼で発生した熱エネルギーを回収し、再利用しています。2019年度は、生産量の減少（前年比93.2%）を上回る削減（前年比82.8%）を記録しました。

VOC排出量(トン)



VOC排出量(生産高原単位)



に放出されることによる汚染を防ぐために、無溶剤技術の開発や、汚染防止設備の設置などを推進しています。

環境排出 環境法令への対応

3Mジャパングループは化学物質の管理システムの一部として、化学物質データベースを構築・運営しています。これにより、PRTR法が定めた報告内容に準拠した化学物質の管理が可能となっています。下表は2019年度の3Mジャパングループの全事業所における該当物質の環境排出量および移動量をまとめたものです。

PRTR (Pollution Release and Transfer Register)

化学物質排出移動量届け出制度。有害性のある化学物質がどのような発生装置から、どのくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する制度。行政機関に年に1回届け出ます。日本では1999年に法制化されました。

PRTR対象物質の環境排出量と移動量 (2019年度：2019年4月～2020年3月)

政令番号	物質名	排出量 (kg)			移動量 ^{※2} (kg)
		大気	水域	土壌	
053	エチルベンゼン	22,792	0	0	6,980
448	ジフェニルメタンジイソシアネート (MDI)	1,470	0	0	221
446	4,4'-メチレンジアニリン	0	0	0	1,654
134	酢酸ビニル	182	0	0	337
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	51	0	0	84
300	トルエン	29,815	0	0	37,583
349	フェノール	7	0	0	6
392	ノルマルヘキサン	61	0	0	155
455	モルホリン	482	0	0	41
276	テトラエチレンペンタミン	0	0	0	0
277	トリエチルアミン	43	0	0	72
207	2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール (BHT)	76	0	0	50
306	1,6-ヘキサジオールジアクリレート	1	0	0	297
080	キシレン (O-,P-,M-) 総計	27,606	0	0	9,916
460	トリクレジルホスフェート	19	0	0	66
007	アクリル酸ブチル	38	0	0	3,544
320	ノニルフェノール	27	0	0	43
411	ホルムアルデヒド	54	0	0	75
416	メタクリル酸 2-エチルヘキシル	0	0	0	963
239	ジブチル錫ジラウレート (有機スズ化合物)	4	0	0	115
004	アクリル酸	1	0	0	2
420	メタクリル酸 メチル	36	0	0	58
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	295	0	0	356
419	メタクリル酸ノルマル-ブチル	0	0	0	1,556
243	ダイオキシン (mg) ^{※1}	0.68	0.00	0.00	675.59
	合計 (除くダイオキシン)	83,061	0	0	64,175

※1：ダイオキシンのみmg

※2：移動量とは事業所外で適正に処理された量です。

日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。

社員のダイバーシティとインクルージョン

私たちのコミットメント

世界で最もインクルーシブな会社であり続けることを目指して、3Mは、全ての社員に魅力を感じてもらい、そして世界中から最高の人財を惹きつけることに注力しています。ダイバーシティとインクルージョンは、私たちのバリューモデルの基盤です。私たちのバリューモデルは、市場において私たちを差別化し、特別な存在にするようなアクションから構成されています。

私たちは、グローバルに活躍する多様性のある社員 様々な経験、民族性、年齢、性別、性的指向、性格、スタイル、考え方など、多様性にあふれた人々によって、世界中の3Mのお客様、サプライヤー、チャネルパートナーのニ

ズにより密接に対応できると考えます。同じように重要なこととして、私たちはインクルージョンがダイバーシティの力を開花するカギであると認識しています。インクルーシブなカルチャーとは、一人ひとりがあるがままの自分であることを尊重されるものであり、個々人の違いを支持し、理解し、公平で平等な機会を全ての人に与えます。インクルージョンはエンゲージメントにも繋がります。エンゲージメントの高い組織ではコラボレーション、創造性、そしてイノベーションが育まれ、3M、社員一人ひとり、そしてチームの長期的な成長につながります。

なによりも、ダイバーシティとインクルージョンを促進するカルチャーを醸成することは、正しい行いとして奨励されます。ダイバーシティとインクルージョンとは、全ての人が活躍し、コラボレーションし、安心して賛成または反対し、敬意を持って意見を交わし、学び、創造することができるよう、知的そして感性あふれるような空気感を生み出すことです。当社の行動規範(6ページ参照)は、3M社員であることは何を意味するのかを示し、以下の3Mの「尊重し合う職場に関する指針(3M Respectful Workforce Principle)」を含んでいます。

敬意をもつこと：私たち全員の持つ最高の資質を反映、活用する職場環境を作るため尽力します。こうした環境では各人が敬意をもって職業人として互いに接し、個性を尊重します。

3Mの尊重し合う職場の指針は、「3Mの職場では誰もが敬意ある対応を受ける権利を有します。敬意ある対応とは、各個人を職業人として誠実に扱い、その個性、経歴および思想の価値を認めることを意味します。尊重し合う職場には、違法な差別やハラスメントは存在しません。ただし、法律を遵守するだけでは不十分です。不適切な態度や、職業人にあるまじき態度を取らずに、3Mの倫理や理念に沿って業務を遂行できる環境でなければなりません。こうした職場では、誰もが最善を尽くすことができ、報復をおそれずに職場での懸念を遠慮なく報告することができます」と説明しています。このような職場づくりを促進するため、3Mでは社員、求職者、お取引先に対する人種、肌の色、宗教、性別、国籍、障がいの有無、性的指向、婚姻状況、その他あらゆる形態の差別とハラスメントを禁じています。

次に、ダイバーシティとインクルージョンを推進するための、日本での取り組みをご紹介します。



日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。

「2019国際女性デー」ローカルイベント開催

3M ジャパングループでは、国際女性デーにおける3Mのグローバル共通の“I believe in ME——自分自身を信じ、パワーを引き出そう”をテーマに、2019年3月に社内イベントを開催しました。前半に、3Mアジア地域担当副社長(当時)南多美枝とのダイアログを行い、後半では、社外講師より「How to make communication with confidence that makes me authentically myself (エンパワーメントコミュニケーション)」というテーマで講演いただき、自分の能力や才能、強みを十分に理解した上で、自分や自分のコミュニケーションスタイルに自信をもち、堂々と意見、考えを伝えられるようになるには、という点についてセッションを行いました。

スポンサーシップ・プログラム

3M ジャパングループの将来のマネジメントを担うポテンシャルのある女性人財を特定し、担当部門の役員自らがスポンサーとなって、部長職への昇進過程を支援する2年間のプログラムです。スポンサーというのは、メンターのようなキャリア形成上の助言や相談にとどまらず、昇進・配属などに直接的な影響力とオーナーシップを持って自分のミッションの一つとして候補者を支援するものです。2015年にスタートしたこのプログラムは、当社の女性人財育成および登用を推進しています。



3Mカルチャー・アクティベーション・ワークショップの全社実施

3Mカルチャーである「お客様を中心に」、「イノベーションを大胆に」、「インクルージョンを原動力に」、「アジャイルで成功する」、「揺るぎない誠実さをもって」は、3Mが企業としてどのように考え、3M社員がどのように日々の行動をするのかを表しています。2019年上半期には、社員が3Mカルチャーについて理解を深めるため、上司が自らファシリテーションしながらチームと一緒に3Mカルチャーに関する対話型のワークショップを全社で開催しました。

リバースメンタリング・プログラム

3M ジャパングループでは、多様性あふれる社員の意見や経験・知識をビジネスに活かし、社員と会社双方の成長を目指すため、リバースメンタリング・プログラムを行っています。このリバースメンタリング・プログラムでは、職業経験のまだ浅い社員がメンター、シニアリーダーがメンティとなり、リバースメンター世代の価値観や考え方を学び、世代の壁や経験の違いを超えてリバースメンタリングの対話を通じて互いの理解を深めることを目的としています。2018年のリバースメンタリング・プログラム導入初年度は、役員1名のメンティに対して、社会人経験4年目までの社員2名がメンターとなって実施し、2019年にはメンティの対象を事業部長にまで拡大し、メンティ2名、メンター2名の4人グループでのリバースメンタリングを実施しました。このリバースメンタリングがインクルージョンを高める取り組みとして評価され、2020年はアジアパシフィック全域で展開されています。リバースメンタリング・プログラムは、組織の枠や職場の上下関係を超えたネットワーク拡大と学びの機会として活用され、インクルーシブなカルチャー醸成を推進しています。

日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

- 2025年までに個人と組織としての力を高めるために様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。

ラーニングカルチャーをつくる——価値あるカルチャーを築く

私たちのコミットメント

3Mでは、よりスキルを磨き、成長したいと考えている社員のために様々な機会を提供しています。職務においては世界中のほぼ全市場、全業界に接点があるため、幅広い経験を積むことができ、外国に住み、異国のカルチャーについて学ぶ機会もあります。幅広いキャリアの選択肢があることが、一つの会社の中でキャリアを広げてゆくことを可能としています。さらに、個人の持つ違いを認め、尊重し合うインクルージョンを大切にするカルチャーによってどの部門に行っても好奇心旺盛で想像力に富む同僚と協働ができるというのも特徴です。職務以外においても、個人と組織の力を高めるために、様々な能力開発プログラムを実施しています。事業環境が急速に変化する中、お客様、株主、社員の変わりゆくニーズに3Mが常にタイムリーに応じられるようにするためには、社員一人ひとりの継続的な学びが欠かせません。その上で、高いパフォーマンスで仕事をするカルチャーがあり、社員と会社がともに成長してゆくモデルを目指しています。

ゴール：2025年までに、個人と組織としての力を高めるために様々なチャネルを通じた学びの機会を100%の社員に提供する。

私たちは社員が仕事とキャリアの両方で成功できるように投資を惜しみません。上記のゴールを達成できるように、社内でも数多くの能力開発プログラムを実施し、社員に様々なチャネルを通じて学びの機会を提供します。私たちは能力開発に関して「70：20：10の法則」を採用しており、仕事、他者、研修といった異なるチャネルからの学びを奨励しています。

70% 
仕事からの学び
20% 
他者からの学び
10% 
研修などからの学び

次に日本で実施している具体的なプログラムの一例をあげます。

3Mカルチャーの浸透

3Mが100年以上の長きにわたりイノベーションを起こし続けてこられたのは、私たちの独特の企業文化に拠るところが大きいとされています。私たちは2019年に企業文化を明文化し、5つの要素に分解しました。それらは「お客様を中心に」、「イノベーションを大胆に」、「インクルージョンを原動力に」、「アジャイルで成功する」、「ゆるぎない誠実さをもって」の5つです。2019年にはこれらを自分たちの言葉で理解するために全職場にて前述の「3Mカルチャー・アクティベーション・ワークショップ」(17ページ参照)を行い、それぞれの職場でこれらの要素をよく体現できているところ、より強化が必要なところを話し合い、アクションを決めました。2020年以降はグローバル化やデジタル化といった変化の中でも3Mカルチャーを活かせるように「Virtual Collaboration」、「Intercultural Collaboration」、「Change Agility」といったセッションをバーチャルで全社員向けに展開しています。また、よりパーソナルな活動として、職務上つながりのない上位職の人と一定期間ペアになり、キャリアや職務について定期的に相談ができる「メンタリング」や、前述しました「リバースメンタリング・プログラム」(17ページ参照)の実施は、異なるポジション、世代間で3Mカルチャーが語られる機会となっており、この取り組み自体が「インクルージョンを原動力に」や「イノベーションを大胆に」といった3Mカルチャーを体現しているプログラムと言えます。

Growth Mindsetの醸成

3Mでは長年、「失敗の許容」という文化のもと15%カルチャーが実践され、社員の自主性とクリエイティビティが存分に発揮された結果、多くのイノベーションが開花してきました。この文化をより強化し、時代の変化に対応できるようにするため、3MではGrowth Mindsetの考え方を2019年から取り入れてきました。Growth Mindsetは「人は何歳になっても成長し続けられる」、「挑戦から学ぶプロセスにこそ成長がある」という教育心理学から派生した科学的根拠のある考え方です。これを私たちの中に浸透させるために、2020年には『Growth Mindset Habitキャンペーン』というものをグ

ローバルで展開し、3か月間にわたりGrowth Mindsetを習慣化するためのヒントを記載したメールマガジンを全社員に配信しました。同時にGrowth Mindsetのバーチャルセッションを実施し、数多くの3Mジャパングループの社員が受講しました。

上司・部下とのコミュニケーションを支援——Performance Everydayの導入

社内の変革にアラインする形で2020年には人事評価制度がアップデートされました。旧来の年初に目標設定をして年度の間と年度末に面談をもつ形から、上司と社員が毎月1on1を実施し、個人の目標達成への進捗、業務の目的・意味の確認、日々の努力と結果への認知、フィードバックが行われるスタイルに変更しました。この仕組みを3MではPerformance Everydayと呼んでいます。この仕組みでは上司と部下が信頼関係を築き、心理的安全性が確保されている中で個人の成長につながる対話がなされることが肝要です。それを実現するために、3MジャパングループではPerformance Everydayの導入と同時に、「1on1ミーティングの進め方」、「信頼関係の構築の仕方」、「コーチングスキル」等をテーマとしたトレーニングを全管理職向けに実施し、Performance Everydayの実施が円滑で効果的になるようにサポートしています。

場所を限定しないバーチャルトレーニング積極的展開

すべての社員に学びの機会を提供するとしたゴール達成に向け、2018年より、場所を限定せず、多くの社員が参加できるバーチャルトレーニングを実施してきました。2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面型の集合研修の実施が困難になりましたが、バーチャルトレーニングをこれまで以上に積極的に展開し、社員の学びを止めることはありませんでした。特に、全社員を対象に提供しているプログラムでは、職種・役割・ビジネス経験の長さを問わず、私たちが直面するチャレンジや変化に対峙するために必要なマインドセットやスキルについて、様々なトピックを提供しています。

日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

3Mジャパングループその他の活動

危機管理・災害対応トレーニングやセミナーの提供

- 2025年までに作業者と患者の安全に関するトレーニングを世界中の500万人を対象に提供する。

安全衛生製品学部では、お客様へ保護具の正しい選択と使い方や労働安全衛生に関わる様々なサポートやトレーニングを実施しています。

多くの方にとって重要度が高いものの取り組みが難しいのが「大災害から社員を護る」ための災害対応手法。リアルな体験ができるトレーニング「3M ERT体験コース」を相模原事業所やお客様の現場で開設し、これまでに通算140組織以上、延べ280名以上の方々が受講されました。

大規模自然災害対応、労働安全衛生、一般市民向け感染制御に関し、大学(医学部や工学部)などでの講義や危機管理に関するセミナーなど、組織の災害対応についてもお伝えしています。



子供科学実験室 ウィザードプログラム

- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの奉仕活動を提供する。

一人でも多くの子供たちに科学の楽しさや不思議さを知ってもらいたい——。そんな思いから1996年にスタートした「3Mウィザードプログラム」は、3Mジャパングループの事業活動を活かした社会貢献を代表する活動です。毎年近隣の小学生を招き、“見て、聞いて、やっ

て楽しい”科学実験を行う本プログラムや、小学校を訪問する科学実験授業は、企画から参加児童の募集、当日の運営まですべて社員が自主的に行っています。「ウィザード」とは魔法使いの意味で、技術者を中心とする様々な職種の社員が、アイデア満載の実験を繰り広げま

す。社員にとっては子供たちと触れ合う機会を通じ、社会貢献を実感できるまたとない機会となっています。本プログラムに参加した子供は6,900人以上、参加した社員は4,000名以上に上っています。



毎年たくさんの小学生が参加



「すごい!! 空気の力」。
まずは理論から
(相模原事業所)



「すごい!! 接着の力」。
小学生の成果に社員もびっくり
(相模原事業所)

日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

3Mジャパングループその他の活動

15%カルチャーを活用した3M™ フェイスシールド開発

- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。

「業務時間の15%程度を自分が興味をもつ分野の研究等に使っても良い」という15%カルチャーを活用して「3M™ フェイスシールド」が短期間に開発され、2020年6月に1万枚を厚生労働省に寄付しました。

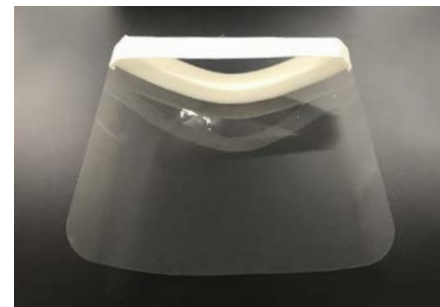
きっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、医療現場で物資が不足するというニュースを聞き、「3M社員として何かできないか」と強く思う有志の集まりでした。事業部、部門の壁を越え、医療現場をよく知る販売関係者、製品開発や製造に関わっているエンジニアが結集し、アイデア出しから製品出荷体制の確立まで僅か3週間で実現しました。

製品設計に当たっては、感染拡大の影響で材料調達のサプライチェーンが滞ることを想定

し、すでに社内では在庫の確保ができていた材料、そして医療現場で使用実績のあるものを厳選。製造の生産性を高めるため、製品構成を単純化し、部品点数は3個までに絞り込みました。開発した「3M™ フェイスシールド」の一般販売



は予定しておらず、寄付品としてのみの目的で開発されましたが「製品性能や品質に妥協はできない」という強い思いから医療用製品事業部の専門家たちにより、通常の新製品と同等のレビューを実施して製品性能を担保しました。



自然災害等の地域貢献活動

- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの奉仕活動を提供する。
- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。

2019年、3Mと3M Foundation(基金)は、世界中の自然災害に対応する貢献活動を行いました。

世界を対象とした場合、アメリカの南部、中西部、南東部および、南アジア／ネパールとモザンビークでの洪水対策、エボラ出血熱の流行により影響を受けたコンゴとルワンダのコミュニティ、カルフォルニアの大規模山火事などが代表的な活動事例になりますが、日本でも同様に自然災害を受けた地域への復興支援の活動を行っています。

例年のことですが、2019年に世界中で最も多く寄付要請を受けた製品は呼吸用保護具で、災害救援活動のために160万枚以上が寄付されました。3M Foundationは、戦略的災害援助パートナーである、アメリカ赤十字社、ダイレクトリリーフ、Global Giving、MAPインターナショナルを通じて453万ドル相当の資金と製品寄付により支援を行いました。

日本における救援物資の無償提供による地域貢献

3Mジャパングループでは、2019年に発生し日本列島を通過した台風19号により深刻な被害を受けた、長野県危機管理部や福島県災害対策本部へ、河川氾濫の事故復旧作業用およびボランティア活動にお役立ていただくために、支援物資として防じんマスクをお届けしました。また、同じく台風19号による被害を受けた栃木県には、支援物資として予防歯科用製品の歯磨きペーストを提供しました。



3M™ VFlex™ 防じんマスク 9105J-DS2



クリンプロ™ 歯みがきペースト

イノベーションマネジメント

科学を生かして持続可能性ソリューションを創造する。

日本の活動報告

サイエンスでコミュニティに貢献

サイエンスを通じてよりポジティブな世界を作り、人々の意識を喚起し賛同を得る。

3M ジャパングループその他の活動

3M Impact プログラム

- 2025年までに教育、コミュニティ、環境についてのプログラムのため、資金と製品を投資する。
- 2025年までに多様性のある社員基盤を構築するために、マネジメント層における多様性に富んだ人財パイプラインを倍増する。
- 2025年までに世界中で30万時間のスキルベースの奉仕活動を提供する。

3M Impactとは、世界にあるチャレンジングな課題の解決に自分のスキルを活用して挑戦したいと志す3M社員のための、そのチャレンジを促進しサポートするプログラムです。3Mはその課題を解決したり、世界中の人々が暮らす社会をより良いものにするため、多様性のあるチームを編成します。3M Impactは3M社員が世界に対して良好なインパクトを与える機会を提供する一方、参加者は職務上重要なスキルを磨くことができます。

活動分野は3Mの事業と関連があり社会的必要性が高く、3Mが重要と考えている分野であり、具体的には、STEM（サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、数学）教育、労働力の開発、循環型経済、気候変動などになります。またパートナーとなる組織はNPO・社会的企業（特に雇用を得にくい人たちを優先的に雇用する企業）・政府機関などが対象です。

3M ジャパングループにおいてもこれまで6名がこの活動に参加しています。直近の活動を以下にご紹介します。



2017年 インドネシア

インドネシアのNGOが行っている廃棄されたポリ袋や洗剤のパウチからショッピングバックやタブレット端末ケースを作るリサイクル活動でできた製品の、さらなる浸透を図るための提案と、安全面・品質面から製品の生産工程の改善提案。

3M参加国：アメリカ、インド、オーストラリア、カナダ、メキシコ、日本

2018年 南アフリカ共和国

プロジェクトマネジメントについて課題を抱えていた、貧困地域でのECD (Early Childhood Development) を行っているNPOに対し、「プロジェクトプロセスの定義」、「各種のツール」、「ポートフォリオマネジメント」、「人財の能力

向上」の4点についての提案。

3M参加国：アメリカ、中国、カナダ、スイス、トルコ、トリニダードトバコ、シンガポール、日本

2018年 中国

エコシステムが構築された村をモデルとして所有しているNGOの、河川の水質汚濁にとりくむ活動の認知度をあげる方法と、資金を集める方法を提案。

3M参加国：ブラジル、メキシコ、チリ、インド、ジャマイカ、ドイツ、ロシア、コスタリカ、カナダ、日本

2019年 パナマ

パナマの教育機関にSTEAM（サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アート、数学）

教育を導入するためにファンダレイジング活動を行うNPOに派遣され、国際資金を中心として資金を集める方法やそのプロセスの構築を提案。

3M参加国：コスタリカ、トルコ、韓国、中国、アメリカ、インド、英国、UAE（アルバニア）、日本



私たちのコミットメント

3Mでは、サイエンスを応用して生活を改善しています。

社会の課題は進化し続けていますが、私たちのサイエンスも進化しています。今日の、そして将来の問題を解決に役立てるため、私たちのテクノロジーを絶え間なく進展、適応させています。13年前にテクノロジープラットフォームの3M周期表を作成し、未来のテクノロジーに注力し、投資をしている状況を正確に反映するよう、2019年に表を改訂しました。新しい3M周期表には、合計51のテクノロジープラットフォームが含まれています。大半のテクノロジープラットフォームは変更されていません。9つの新しいテクノロジープラットフォームを追加し、8つを変更し、2つを除きました。この変更により、私たちの未来の成長機会と51のテクノロジープラットフォームの整合性が取れるようになりました。51のテクノロジープラットフォームは、ビジネス部門と地域全体で幅広く共有され、組み合わせて様々な業界向けに独自の製品を生み出しています。当該プラットフォームのいずれも、一つのビジネス部門だけで占有することはありません。

テクノロジープラットフォームは、会社レベルで管理されているもので、どのビジネス部門でも担当するお客様または市場のために活用することができます。

私たちのビジネス部門は全て、基盤となる強みである —テクノロジー、ものづくり、グローバル展開、ブランド— で結びついています。そのため、広範囲にわたるグローバルネットワーク全体で製品を生み出し、製造し、販売することが可能になります。

R&Dは私たちの心臓部です。

私たちは、お客様と市場と密接に連携しつつ継続的に科学的研究と製品開発への投資を行っています。R&Dは有機的成長(organic growth)をけん引する独自の先端的製品を常時生み出す流れを促進しています。

実際、2019年には売上の5.9%にあたる19億ドルを還流してR&Dに投資しました。

当社で60年前に始まった15%カルチャーは、創造性をかき立て、リスクを取ることに、そして協働するきっかけを作ります。このカルチャーの

3M テクノロジープラットフォーム

Ab																	
建築材																	
Ad	Em															Di	Hd
接着・接合	電子材料															ディスプレイ コンポーネント	ヘルスケア データ処理
Bi	Fi	Nw												Ms	Ac	Ec	Lm
バイオ材料	フィルム	不織布												モデリングと シミュレーション	音響制御	エネルギー コンポーネント	ライト マネジメント
Ce	Fl	Pm	Am	Pc	Rp	An	Pr	Cv	Ro	Bd	Eg	Mf					
セラミックス	フッ素化学	高性能材料	付加製造法	精密塗布	放射線処理	分析	プロセス設計と 管理	コンピュータ ビジョン	ロボティクス	生物物質抽出と 微生物制御	機能性 グラフィックス	メカニカル ファスナー					
Co	Mm	Po	Mo	Pd	Su	Cp	Sd	Ds	Se	Cs	Fe	Sw					
先端 複合材料	メタマテリアル	多孔質材料	成形加工	微粒子分散 プロセス	表面処理	加工と包装	持続可能な 設計	データ サイエンス	センサー	コネクテッド システム	フレキシブル エレクトロニクス	皮膚・ 創傷管理					
Do	Nt	Rm	Mr	Pp	Tf	In	We	Es	Ss	Dd	Fp	Tm					
塗料材料 塗料補正用材料	ナノ テクノロジー	成形材料	高精度表面	ポリマーメルト プロセス	薄膜と プラズマ処理	検査と計測	促進剤特性	エレクトロニクス システム	ソフトウェア ソリューション	ドラッグ デリバリー	ろ過と精製	熱制御					
材料			プロセス			機能		デジタル		アプリケーション							

もと、社員にはリスクを取り失敗から学ぶ自由が与えられます。この自由こそが科学的発見には不可欠なものです。社員は勤務時間の15%を開心のあるプロジェクトに費やすことができます。このプロジェクトやアイデアが、将来の新たな3Mのヒット製品になる可能性を秘めているのです。

私たちのビジネス部門は全て基盤となる強みである —テクノロジー、ものづくり、グローバル展開、ブランド— で結びついています。

3Mはこれまでに12万件以上の特許を得ており、これは当社のイノベーションを生む原動力の力強さの証明でもあります。

過去5年間で、3Mは年間平均3,780件の特許を取得しています。

3Mが製品の設計、製造、マーケティング、そして販売を行う上で指針となるポリシーと基準は、「3M行動規範」(6ページ参照)という共通の基盤の上で成り立っています。行動規範は3Mの社員やチームが仕事をする上で適切な判断や行動をするための最も重要な指針です。当該規範は、3Mのバリュー（価値）と3Mの社員やサプライヤーが果たさなければならない責任を定義しています。

幅広いバリューの中には原則、ポリシー、基準、そしてガイドラインなどが含まれ、様々な仕事の場面において3Mが倫理的であるとするアプローチが具体的に記されています。この中には、3M製品のイノベーションマネジメントに関わる状況も含まれています。

製品の安全性、品質、およびスチュワードシップの原則

当社のお客様は、ビジネスをさらに前に進め、毎日の暮らしをより快適にし、そして明日をもっと豊かにするために3Mの製品を頼りにしてくれています——そして、私たちにはお客様のそのような期待に応える責任があります。そのため、最高品質の製品だけを作るよう取り組まなくてはなりません。

3Mが販売する製品は全て、厳格な品質基準を満たし、想定される使用において安全でなければなりません。

3Mの行動規範——公平であること(Be Fair)（参照：https://www.3m.com/3M/en_US/ethics-compliance/code/fair/）の中に、ある「製品安全、品質、スチュワードシップ原則(Product Safety, Quality, and Stewardship Principle)」で詳細に説明されているとおり、製品安全、品質、スチュワードシップは、3M製品の設計、製造、マーケティング、販売を行う際に常に重点的に考慮されなければなりません。3Mの社員は製品安全、品質、スチュワードシップに関わる全ての適用される法規制、3Mのポリシー、基準、手続きを理解、遵守し、懸念に対し真摯に報告し、対応しなければなりません。3Mの経営層は、報告された懸念事項に対応し、3Mの社員が適用される法規制、3Mのポリシー、基準、手続きについて適切に教育を受けることを徹底する責任があります。

さらに、製品の再利用、転用を含む完全なライフサイクルを通じて優れた環境パフォーマンスを持つ製品を製造し、サプライヤーとビジネスパートナーと連携することで同様の目的を支持してもらえるようにすることも私たちの責任だと認識しています。

サイエンスで循環型経済に貢献

ゴール：新製品の商品化プロセスに入るすべての3M製品には、サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)が含まれ、それがより良い製品に影響を与える方法を示します。

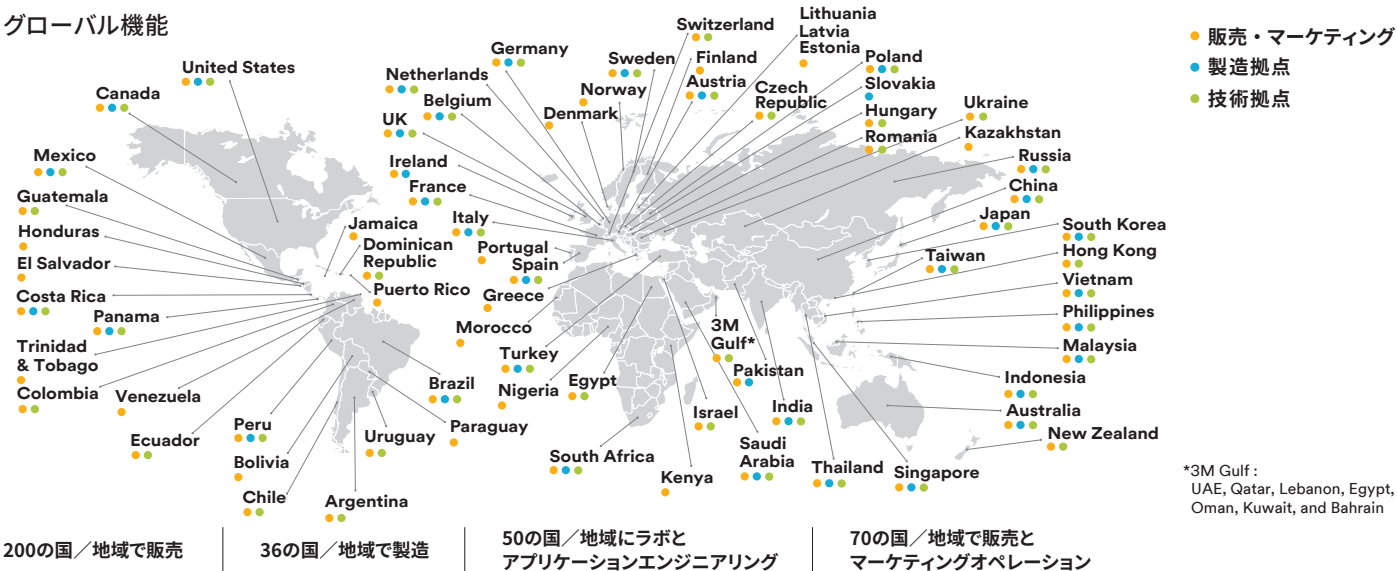
2019年、当社は2025年の目標(お客様が環境目標を達成することに役立つ、より持続可能な材料と製品を開発するための投資)を強化し、新製品の商品化プロセスに入る製品のすべてに、SVCを含めることを要求しました。多くの企業は、製品開発におけるサステナビリティのトピックを課題と見なしていますが、3Mではそれを歓迎し、積極的なアプローチをとっています。将来のサステナビリティニーズを特定して理解するために取り組み、製品ポートフォリオを拡大して、サステナビリティの利点を満たします。持続可能性をR&Dプロセス、ブランド、およびお客様とサプライヤーの考え方に組み込むことにより、3Mの成長を新しいレベルに移行し、ビジネス、地球、そしてすべての生活の改善への取り組みを前進させることができます。

活動報告

3MのSVC

2019年、商品化プロセスに入るすべての新製品に、サステナビリティへの影響と社会的大義のためにどのような変化を起こせるのかの説明を加えました。2019年を通じて、3M | Growと呼ばれる新しいシステムを使い新製品開発(NPI)プロセスを展開しました。アイデア段階から発売開始まで製品を開発するためのこの堅牢なフレームワークには、プロセスの各フェーズにSVCの評価と確認が組み込まれています。

グローバル機能



ユニークで差別化されたバリュー

3Mのパワーは、当社の基盤となる強みをお客様に結びつけるという手法にあります。これらの強みは、当社のテクノロジー、ものづくり、グローバル展開、およびブランドです。これらは私たちを一つの企業として特徴付けるものですが、これらを組み合わせることで単純な合計以上のさらに大きなビジネスを構築します。3Mのパワーは、社内のすべてのビジネスにわたってパフォーマンスの差別化要因を深く理解することから生まれます。複数の市場で事業を展開している場合であっても、私たちがポートフォリオの中でどのように連携しているかがその要因に反映されています。

3Mのパワーはまた、私たちのものづくりの強みがあるからこそ生まれています。3Mでは製造にも知的財産を活用し、社内に製造拠点を保有していることで、市場では差別化され優位性を保っています。当社の知的財産の3分の1は製造部門にあり、その多くはトレードシークレットになります。このため、市場でより高品質、高性能かつ競争力のある製品を提供することが可能になります。真のグローバル展開は、国際市場でプレゼンスがあるだけでは不十分です。ビジネスモデルを実行し、国際市場への参入を成功させるには、グローバル組織としてのスキルが必要です。世界中のほぼすべての地域と場所に当社の基盤となる強みとアプリケーションを展開するためです。当社はほぼすべての地域と国々で販売を行っており、社員とセールス／販売員の3分の2はアメリカ国外で働いています。ビジネス、地域、サイエンスの分野全体に融合とコラボレーションを行き渡らせることにより、新しいアイデアや製品をラボから工場へ、そしてあらゆる場所の家庭や企業といったお客さまに効果的かつ効率的に提供いたします。そして、最後にブランドです。私たちのすべての市場にわたり一つひとつのビジネスに価値を

加えるのが「3M Science. Applied to Life.™」というブランドです。これらの基盤となる強み(テクノロジー、ものづくり、グローバル展開、およびブランド)を最大限に活用することが、3Mのパワーを真に創出するものになっています。

基盤となる強み

ユニークで差別化されたバリュー

- テクノロジー
- ものづくり
- グローバル展開
- ブランド

チームのコラボレーションと戦略的パートナーシップの活用

3Mには、多様なアイデアと創造性を優れたテクノロジー、ビジネス資産、イノベティブな製品プラットフォームに変えていく力があります。3Mを唯一無二の企業としている多くの理由の中の一つに、コラボレーションへの傾注があります。ここにはサイロ(縦割り組織の弊害)はありません。私たちは、各ビジネスの垣根なく、テクノロジー横断的に、そして海と大陸を越えて互いに協力しています。

典型例である3Mテクフォーラム：これは3Mの技術コミュニティの1万人以上の社員のための、自己主導で自発的に組織化された協働のきっかけを作る場です。60年以上前に始まったテクフォーラムは、3Mの研究者たちが自身の記録をグローバルの仲間たちと共有し、3Mの51のテクノロジープラットフォームを中心に協力し、3Mのイノベーションパイプラインを活性化する新しいアイデアを開発する機会を提供しています。このようなコラボレーションの取り組みが、毎年開催されるグローバルイベント、春のシンポジウム、表彰プログラム、および年間を通じて開催される多くのチャプターイベントで行われます。

2019年、テクフォーラムは500件以上のイベントを演出しました。

テクフォーラムでは、あらゆる分野での3Mの従業員間のコラボレーションの3Mの文化を祝うため、従業員とリソースをつなぐMade by Youイベントを毎年開催しています。アイテムが3M用に作られているか、3M製品で作られているか、または単に楽しみのために作られているかにかかわらず、従業員が3Mでアイデアを実現する方法を強調する機会です。

日本のテクフォーラム活動：日本においてもテクフォーラムは30年以上の歴史があり、毎年技術者による多種多様な自発的活動がおこなわれています。開発者同士の技術交流ポスターセッション、15%カルチャーから生まれたアイデアコンペ、開発と製造の共同イベント、マーケティングとの共同新製品紹介イベントなど、工夫を凝らした活動が行われています。日本国内のみならず国外のテクフォーラムの相互交流も活発で、2019年のイベント数は100件を超えました。これからもネットワークングやコミュニケーションを通じて、テクフォーラムはイノベーションと成長を導くための創造や協力の場を育んでいきます。

イノベーションのために構築されたプロセス

世界的にも新しいプロセスとして、主に3Mのコポーレートリサーチプロセスラボで開発され、これらの新しいプロセスの開発は、当社の新技術導入(NTI)フレームワークに取り込まれています。

- 調査：市場機会を特定する
- 認定：顧客のニーズを満たすために優れた製品コンセプトを特定する
- 展開：技術ソリューションを開発する

一方、新製品開発(NPI)プロセスは、アイデア段階から発売開始まで製品を開発するための堅牢なフレームワークを提供します。3MのNTIおよびNPIプロセスは、すべてのグローバルビジネスにテクノロジーと製品の商品化のための共通のフレームワークを提供します。進捗情報が、プロセスで設定されているすべてのステップまたはゲートで、タスクの成果物と共に求められます。会社全体としてテクノロジーと製品の開発創出のために一貫した実施手順があることは、ツールとベストプラクティスを共有するため、さらにプロジェクトポートフォリオを管理するための共通言語が提供されるため、リスク分析に役立ちます。

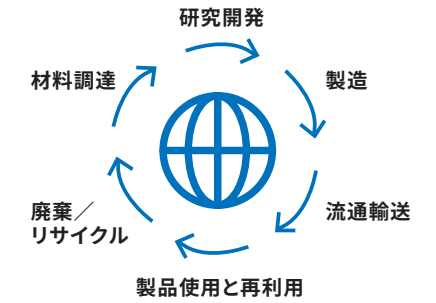
長期視点に立った製品イノベーション

3Mは、ライフサイクル全体にわたって優れた環境性能を持つ製品を生産するために取り組

んでいます。また、サプライヤーやビジネスパートナーとも協力して、同じ目的に向かっていきます。これらの取り組みが一体となることで、当社の長期的な成功が明確になり、保護され、保証されます。

ライフサイクルマネジメント(LCM)は、EHS(環境・健康・安全)および関連する規制上の考慮すべき事項が、3MのNPIプロセスを通じて3M製品の開発および商品化に確実に組み込まれるようにする、3Mのアプローチです。新製品開発(NPI)の期間中、3MのビジネスチームはLCMの評価結果を報告します。これには少なくとも次の内容が含まれています。原料の組成や人間の健康と環境毒性の評価、電気的および機械的安全性、その他の規制への適合そして顧客の環境・健康・安全(EHS)要件への要求や危険有害因子伝達文書。同様に、社内のコーポレート・プロダクト危機管理計画(CMP)を通じて、製品の変更によるLCMの影響を評価します。これらのLCMプロセスを活用して、製品のEHSパフォーマンスを継続的に改善します。

ライフサイクルマネジメント



前進し続けるプロダクトスチュワードシップフレームワーク

3Mでのプロダクトスチュワードシップの責任はビジネス、地域、およびコーポレートのスタッフグループ内の幅広い範囲にわたって共有されます。これら範囲全体の個々それぞれが一体となって、私たちの社会的および物理的な環境を尊重するという3Mのコアバリューをサポートするために取り組んでいます。日本における製品責任(プロダクトスチュワードシップ)は次の活動を行っています。

日本国内の製品責任(Product Stewardship)を果たすために

製品を安全に製造するとともに、意図された用途での使用に対してリスクを低減し、安全性を確保すること——。3Mジャパングループでは、この考え方を「製品責任(Product Stewardship)」の基本と捉え、原材料の選択、設計段階から使用、廃棄に至る製品のライフサイクル全体において、化学物質が適正に管理されているか、製品の安全性が確保されているかなどを新製品導入および製品変更管理プロ

セスの手順に組み込みチェックしています。また、「製品責任担当者」を開発部門ごとに配置し、各事業部が適正に「製品責任」を果たしていく体制を整えています。

関係法令の情報収集と社内教育

製品に関連する法規制を遵守し、改正などにも速やかに対応するために、法規制の施行状況や改正情報などを製品責任担当者と随時共有し、各事業部の円滑な対応を促しています。また、製品関連法令の最新の要求事項を反映した教育資料を用いて、社内教育を実施しています。

化学物質管理基準

3Mジャパングループは、製品の製造に不可欠な化学物質の効果的で責任ある管理に取り組んでいます。国内外の法令、環境問題に先進的に取り組むお客様からの要求、国際的研究機関の情報、3Mの化学物質に対するポリシーなど最新の情報を反映して化学物質を特定、評価を実施し、制限や管理をおこなっています。

製品に関する基本情報の開示

製品を安全にお使いいただくために、3Mジャパングループでは、安全データシート(SDS)、製品ラベルなどにより製品の化学成分と危険性、適用法令などの基本情報を提供しています(参照: https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/company-jp/SDS-search/)。SDSについては全世界の3Mで共通のWeb検索システムでも入手可能です(参照: https://www.3m.com/3M/en_US/company-us/SDS-search/)。製品中の環境に影響を及ぼす可能性のある化学物質等に関するお問い合わせにも、迅速にお応えできる体制を構築しています。

関連性があり実現可能な場合のライフサイクルアセスメント(LCA)

すべての3M製品に適用されるLCMプログラムに加えて、一部の3M製品のライフサイクルアセスメント(LCA)も実施しています。3Mでは、ISO 14040に準拠したLCAは通常、工場での原材料入手から製品出荷まで(cradle-to-gate)です。これは、使用されたり廃棄されるライフサイクルの段階で、お客様が当社の製品をどのように扱われるのか大きく依存するためです。このことは、お客様が環境への影響を理解して削減するのに役立つ共同作業のようなユニークな機会を提供します。

当社の製品を使用いただくことで、お客様の温室効果ガス(GHG)排出量の削減をお手伝いし、気候変動の懸念への対応にもはるかに大きな貢献ができることを認識しています。

環境マネジメント



私たちのコミットメント

1975年、3Mの取締役会は3M環境ポリシーを採択し、環境スチュワードシップに対するコミットメントを正式に発表しました。このポリシーでは、環境マネジメントと資源の保存に枠組みを設定し、発生源で汚染を防ぐ取り組みに力点を置いています。

その後、当社の環境マネジメントプログラムは進化し続けました。環境、社員の健康と安全、コミュニティに対する潜在的なリスクを特定するために取り組み、当該リスク対策として、プロセスや製品デザイン、基準を修正しています。ITを駆使してリスクを評価し、データシステムとテクニカル分析を通じてコンプライアンスの向上を進めています。

持続可能な開発に向けた3Mの戦略の中には、環境上及び社会的、経済上の価値の枠組みの中でお客様満足度と商業的成功を追求することが包括的に含まれています。当社は、世界中の適用される環境要件の全てに準拠することにコミットしています。

コンプライアンスに留まらず、事業活動と製品の環境への影響を減らすために3Mは多額の投資を継続しています。お客様が環境インパクトを減らし、サステナビリティ目標を達成する

一助となるように持続可能性の特性を製品に組み込んでいます。3Mは、環境ポリシーと環境規則は常にサイエンスを基にした意思決定に依るべきだと考えます。

活動報告

グローバルの環境ポリシー、マネジメント制度、KPIを策定、実施することで、3Mが継続的に団結し、世界中で4つのビジネスグループそれぞれが継続的に改善を取り込んでいくことが可能になります。それが、一貫性と革新的な環境についての考え方を確保することに繋がります。

マネジメント

3Mの環境マネジメントシステム(EMS)の枠組みがあることで、会社のプログラムを体系的かつ一貫して実施ができ、環境に注力する上で事後対応ではなく先取りの対策が可能になります。全社的な環境マネジメントと環境パフォーマンスについて関連する情報を特定、追跡、管理できるように広範囲にわたるグローバルシステムを導入しています。3Mの事業活動に関する様々な環境上のコンプライアンスとオペレーション上のパフォーマンスについての様々なKPIを網羅することも含まれています。一部は本レ

ポートやグローバル版のレポートにも掲載されています。

四半期ごとのスコアカードでは、事業所、事業部、ビジネスグループ、コーポレートレベルでのデータが報告されています。スコアカードについては、幹部マネジメントが選択された指標についてのパフォーマンスを確認しています。

これにより、世界中でうまくいったこと、リスク、パフォーマンス改善とフットプリント削減の機会を3Mがモニタリングし、特定することが可能になります。

EHS(環境、健康、安全)インシデントマネジメント

2010年以降、世界中全ての3Mの事業所はインシデントの実数と潜在的可能性の数字(つまり、リスクの特定)をEHS 360と呼ぶ一つの専用システムを通じて社内でも報告することが義務付けられています。その中には、怪我または疾病、火事または爆発、環境的レベル超過、流出、当局からの通知、罰金が含まれますがこれらに限定されません。

EHS 360は、3Mのグローバル展開に必要な、責任の認識、包括的なシステムの理解、より一貫した報告義務について、継続的な改善に繋がっています。

環境マネジメントの実施

私たちは継続して世界中で環境マネジメントシステム(EMS)を進展させます。

当社のアプローチでは、各拠点で文書化した環境目的と目標を立て、実施し、維持することが求められています。EMS計画を策定する際、各3M拠点は財務、技術、オペレーション、事業上の検討事項に対応することが義務付けられています。目的と目標は測定可能でなければならない、汚染予防に対するコミットメントを含む3Mの環境ポリシーに従い、適用される規制やその他の要件を遵守する必要があります。

全ての製造拠点と新たに合併した事業(統合の進展状況に基づく)は、少なくとも年一回はEHSマネジメントシステム自己評価を完了しなければなりません。その環境項目は、法律その他の社内要件に対するコンプライアンスを維持するため、包括的で必須の手続き、システム、プロセスを反映したものになっています。当該評価で得られたデータは、監査、各分野のスペシャリスト(SME)による拠点訪問、その他のデータシステムを通じて検証されます。

日本の環境方針

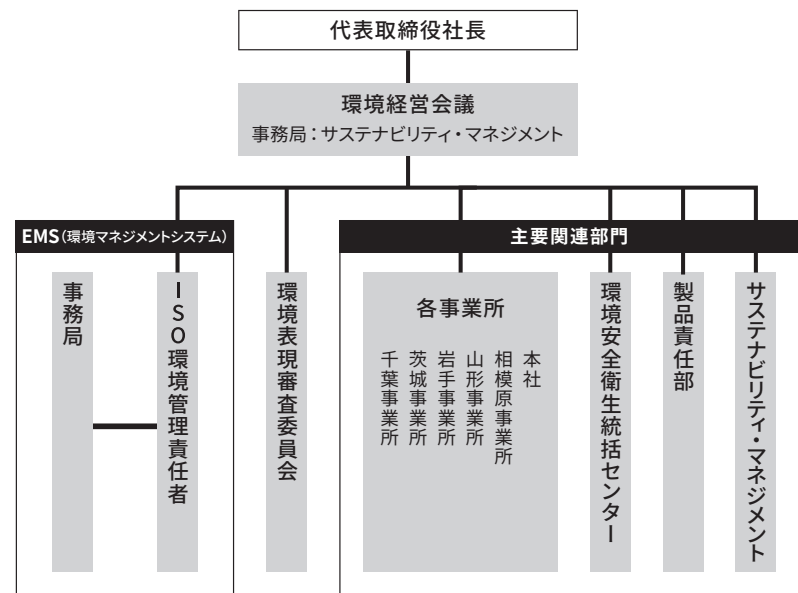
2018年1月、3Mジャパングループでは、1998年に策定2010年に改定した「3Mジャパングループ環境方針」を改定しました。3Mジャパングループの環境方針は、1975年に3M社が定めた環境方針を基に、日本の社会的状況などを反映して策定したのが始まりです。環境問題への取り組みが地球規模で推し進められる中、さらにはサステナビリティ活動の高まりを受け、3Mジャパングループの姿勢を始めその実現のための活動を今後も継続的に実践する事を、より明確に打ち出しました。

日本における環境マネジメント体制

日本でも環境・健康・安全活動を包括するマネジメントシステムとして「EHSマネジメントシステム」を導入しています。3Mジャパングループの環境マネジメント体制は、全体を統括する環境経営会議のもと、ISO環境管理責任者、環境表現審査委員会と、サステナビリティ・マネジメント、製品責任部、環境安全衛生統括センター

ターおよび各事業所から構成されています。環境監査に当たっては、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る為、各事業所で内部監査を実施しています。各事業所はそれぞれの部門・グループでエネルギー削減や廃棄物削減などの環境プログラムに積極的に取り組んでいます。

3Mジャパングループ 環境マネジメント体制



3Mジャパングループ環境方針

3Mは、長年にわたって環境管理の責任と資源保護の必要性を認識してきました。それと同時に3Mは、環境問題が地球規模のものであることを認識し、国際的な環境保全を実現するには建設的な協力が重要であると考えています。3Mジャパングループは、適用される法

令および関連する行動規範を遵守し、組織全体の環境意識を促進し、環境負荷を低減させていきます。

この方針は、3Mジャパングループのすべての業務に適用されます。

1998年3月制定 2018年1月改定

方 針

- 1 自社が原因となる環境の汚染と保護の問題は自らの手で解決する。
- 2 持続可能な環境を実現する製品を開発する。
- 3 環境汚染は、可能な限り発生源で予防する。
- 4 最適な製造活動、再利用およびその他の適切な方法により資源の使用を節減する。
- 5 施設および製品を全ての法規則に確実に適合させる。
- 6 可能な限り、環境保全活動に携わっている公的機関および民間団体の活動に協力する。
- 7 会社および従業員は継続的な改善を率先して推進する。

グローバルにおけるISO 14001の取得申請

ISO 14001環境マネジメントシステム(EMS)規格は、組織の製品、サービス、プロセスの直近及び長期的な環境インパクトを管理するための国際的に認知された取り組みです。2018年、3Mは現行のISO 14001規格に合わせて世界

中の関連する全ての拠点の再認証を取得しました。全て合わせると、私たちのISO 14001の認証を取得している拠点は3Mの世界総製品生産量の92.3%程に相当します。

ISO 14001と日本の活動

3Mジャパングループでは全組織、全製品・サービスでISO 14001認証を取得・継続しています。2015年版への移行は完了し更なる環境マネジメントシステムの改善に努めています。

日本のサステナビリティ目標とET25 ― Environmental Target 2025

2016年1月、3Mジャパングループは、環境負荷削減活動の継続とさらなる改善、“持続可能な発展”に向けた活動を推進することを目指して、「ET25（Environmental Target 2025）」を策定しました。そして2017年1月には3Mジャパングループのサステナビリティ目標を設定し、ET25はISO 14001活動に組み込まれました。ET25は新たに設定された3Mの戦略的サステナビリティフレームワークの中の3つのコミットメント

サイエンスで循環型経済に貢献：
●2025年までに製造工程での廃棄物を売上対比で更に10%削減する。
●2025年までに世界的な水の使用量を売上対比で更に10%削減する。
サイエンスで気候変動に貢献：
●2025年までに純売上に運動してエネルギー効率を30%改善する。
と密接にリンクしています。
ET25では2025年を最終年として3つの目標を設定するとともに、それぞれ2015年を基準年とし年度毎に目標数値を掲げて活動を推進しています。

4年目の2019年は、廃棄物は46%減、水使用量原単位は20%減と、年度目標に掲げた数値を大幅に上回る改善結果となりました。特に廃棄物については、岩手事業所の積極的なマテリアル／サーマルリサイクルの推進が貢献しました。しかしエネルギーに関しては、ET25の削減目標である12%に対して9%と、目標未達に終わりました。
今後も全社的な取り組みを継続するとともに新たな削減機会を模索して、より一層改善を進め、エネルギー、廃棄物と水の使用全てに対して、2025年でのゴール達成を目指します。

3Mジャパングループ サステナビリティ目標：Environmental Target 2025

ゴール	2019年度目標・実績	判定
1 廃棄物：2015年を基準年として、2020年までに原単位で10%削減	8%減 → 46%減	○
2 エネルギー使用：2015年を基準年として、2025年までに原単位で30%削減	12%減 → 9%減	×
3 水使用の削減：2015年を基準年として、2020年までに原単位で10%削減	8%減 → 20%減	○

環境活動賞

「環境活動賞」は、3MジャパングループのISO 14001登録プログラムを対象に、環境保全や環境関連ビジネス成長に大きく貢献した活動をたたえる表彰制度です。受賞プログラムは、設備・施設・工程の改善により省エネルギーを達成したもの、廃棄物、原材料の削減や生産コストの改善をしたもの、輸送燃料を削減したもの、新技術の開発によりお客様の環境課題を解決したものなど多岐にわたります。
受賞プログラムが他部門で展開されたり、新たな活動のヒントになることも多く、環境活動賞は社員の環境活動に進化をもたらす存在ともなっています。

環境活動賞 2020 ISOプログラム 概要

No.	ISOプログラム名	活動概要
1	脂取りフィルム生産工程の収率改善	コントロールが難しい特殊な素材のフィルムの成型厚みムラを、新しい制御技術の導入により改善した。収率を大幅に改善し、廃プラの年間排出量を対昨年で8.5%削減した。
2	アクリルフォームテープ慢性不良撲滅による廃棄物削減	アクリルフォームテープの慢性不良を撲滅した活動。過去幾度も挫折していた課題を関係部署の協力と発想の転換で悲願の0を達成。自工程の不良・廃液削減及び、後工程の不良・生産性改善にも大きく貢献した。
3	コーティングライン リーダーフィルムリサイクル	同一ラインで使用していた、用途の異なる同じ性能のフィルムを、用途を分けずに双方でリサイクルしながら使用する事により、年間47%の材料費のコストセービング、並びに2%の廃棄物処理量を削減した。
4	輝度上昇フィルム不良率改善による廃棄物削減	原材料の光学フィルム巻き芯部巻初めの段差跡が不良となっていたが、特殊装置の設置によるスリットで段差跡を緩和し、不良を以前の60%程度まで削減。廃棄していた不具合部分を良品化し、廃棄量を削減した。
5	自動車用吸音材における過剰品質品の廃棄量削減	廃棄されていた過剰品質品の製品規格を製造部発信で販売部、技術部、品質保証部に明確化案を提案。その後承認、改定となり規格の適正化をすることで廃棄物の削減を実現した。
6	荷崩れ防止方法の変更による廃棄物削減	長年使ってきた保管時の荷崩れ防止のラップを廃棄物と捉え、他のシンプルな方法を確立し廃棄物削減に貢献した。
7	使用済プラスチックフィルムのリサイクル売却による廃棄物削減	使用済特殊プラスチックフィルムを社内焼却から秘密保持契約を新たに行い、外部業者にて粉碎・再ペレット化を行い、リサイクル材として売却可能とした。
8	ポスト・イット®加工工程における損紙のリサイクル	市場の変化から、やむなく産業廃棄物として処理していた過去リサイクル可能な色付工程損紙を、色付紙リサイクル業者の選定RACIを調査導入しリサイクルを可能とした。
9	ガラスバブルズ拡販と輸送方法の最適化によるCO ₂ 削減	ガラスバブルズの消費量が多いユーザー向けにコンテナ単位の出荷、顧客指定倉庫に直送するモデルを推進。拡販とともに環境負荷の低減を実現した。

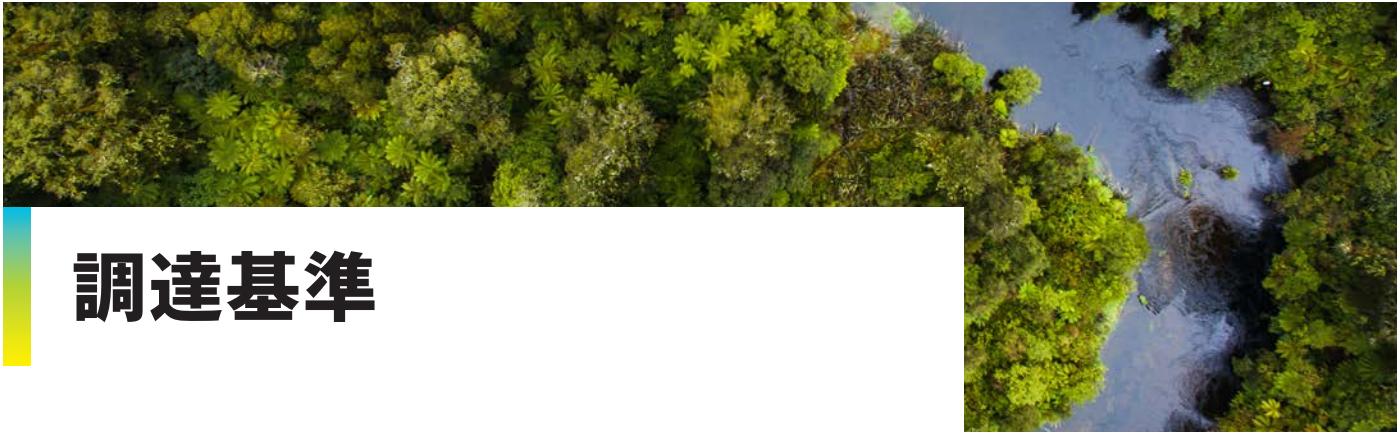
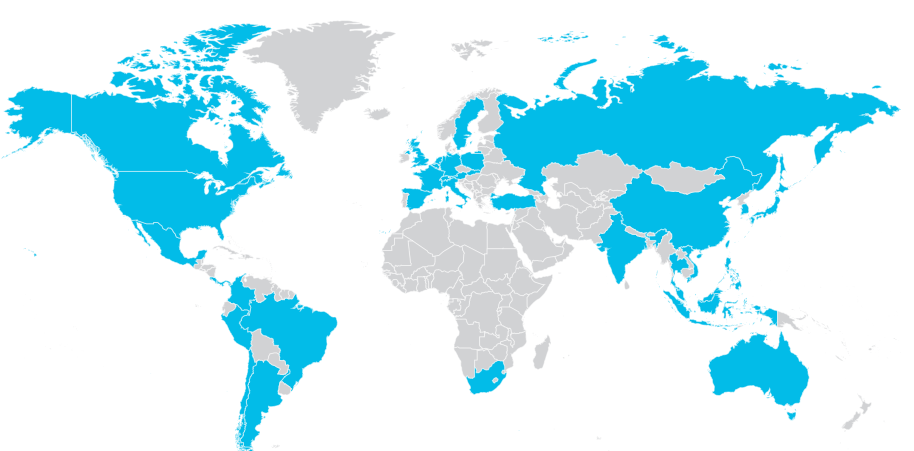
拠点の自己評価と監査

3Mは規制の遵守状況とEHSマネジメントシステム自己評価にある重要項目との整合性を検証し、各拠点固有の複雑なEHS状況に基づいた環境関連の監査を標準的なスケジュールで行っています。2019年、社内のEHS拠点監査では、SVOP (sales value of production：生産量の売上金額) の34.8%の製造分にあたる拠点が監査を受けました。

監査の主要目的

グローバルリスクとコンプライアンスの管理		
コンプライアンスの維持	環境スペシャリストを育成	リスクを管理
ベストプラクティスを共有	改善のための共通分野を特定	要件について共通の理解を構築

3M EHS 監査実績, 2014-2019



調達基準

サイエンスで循環型経済に貢献

少ない資材でより向上に寄与するソリューションを設計し、世界の循環型経済を進展させる。

●2025年までに対象とした原材料のトレーサビリティとサプライヤーのパフォーマンス保証を通じて、サプライチェーンのサステナビリティを向上させる。

グリーン調達に関して

地球温暖化抑止や“持続可能な発展”の実現に向け、国内外で様々な指針の策定や法整備が進んでいます。
SDGs (持続可能な開発目標) やESG (環境・社会・ガバナンス) がその例です。
環境保全に対する社会やお客様の要求が厳しさを増す状況に対応するためには、3Mジャパングループだけでなく、お取引先の皆様と一体となり「グリーン調達」に臨むことが重要です。このため3Mジャパングループでは、原材料、外部から調達する製品、包装材、生産補助材の調達に関する「3Mジャパングループ調達基準書」(参照：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/sustainability-jp/policies-reports/working-with-suppliers/) を設けています。
内容は、各種法令等の改正などに伴い、適時改定しています。
3Mは「国連グローバル・コンパクト」(UNGC) に署名、加入し、UNGCが定める“人権保護”や

“不当な労働の排除”など10原則、およびレスボンシブル・ビジネス・アライアンス(RBA) が求める“責任ある調達活動”などの行動規範を守ります。
サプライヤーにも同じく遵守を求めるために期待項目を「3Mサプライヤー責任規範」にまとめ周知を始めました(参照：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/sustainability-jp/policies-reports/working-with-suppliers/)。
規範が守られていることを確認するためサプライヤー監査と、遵守が不十分な場合は是正を促す活動をいたします。
規範が定める各項目は労働、安全衛生、環境、倫理、マネジメントシステムの5分野に及びます。

紛争鉱物の調達に対する取り組み

2010年7月、4鉱物(タンタル、タングステン、錫、金)の使用有無について報告を促す法案が米国

で制定されました。2019年には“コバルトが労働者の人権を守るかたちで採掘されているか”を監視することも加えました。
3Mジャパングループもこれらの制定に対して、3M社と協働し、同法に準じた紛争鉱物の調査と調達活動を行うこととし、その懸念がある際には、3Mジャパングループのサプライチェーンから排除する活動を開始いたしました。各サプライヤーがこの方針に従って調達活動することを期待するとともに、協働して問題解決にあたっていきます。

パルプ・紙製品調達方針

3Mでは以前から天然資源を保護し、持続的な環境保全を支援する責任を自覚しており、本方針のもと持続可能な形で管理された森林から産出された製品を提供するよう努力するサプライヤーから紙製品を調達する責任を認識しています。パルプ・紙製品調達方針として、森林伐採現場までさかのぼることができる「トレーサビリティ」を有することを求めます。



私たちの製品

全ビジネスグループでサステナビリティ・バリュー・コミットメントを根付かせる。

私たちのコミットメント

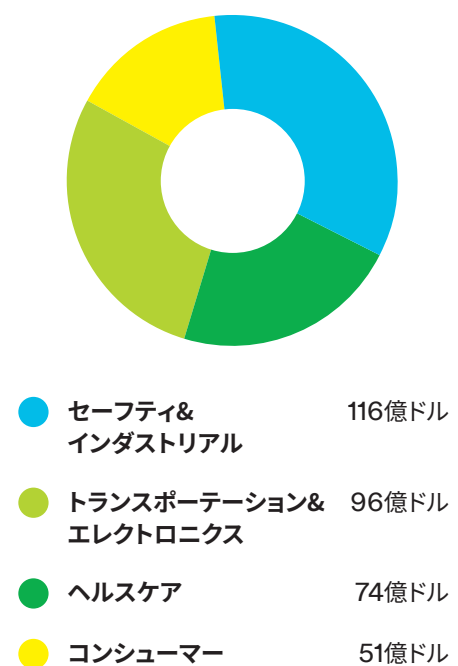
3Mでは、スピードと効率性を向上させ、様々な市場に製品ソリューションを提供するため、4つのビジネスグループが横断的にテクノロジー、製造、マーケティング、その他のリソースを共有しています。2019年より、新規製品化プロセスに投入される製品は100%サステナビリティ・バリュー・コミットメント(SVC)を説明し、社会的大義のために当該製品がどのようにインパクトを起こせるのかを示しています。これを正式に義務化したことにより3Mの多様なグローバル製品の製造パイプラインにサステナビリティが組み込まれることになりました。この動きは意義深いことです。3Mの新製品にSVCを用意する際に検討する項目としては、例えば、リサイクルの可能性、省エネルギーと水使用、責任ある調達、再生可能材料、製品の適切な再利用などが挙げられます。環境及びまたは社会的問題の解決に寄与することがコア・パーパス(中核となる目的)である

活動報告

2019年、3Mは321億ドルの売上を達成しました。

製品も含まれています。例えば、大気環境の改善、温室効果ガス排出量の削減、患者の転帰の改善、工業施設での作業安全の向上などです。3Mの新製品の要件は、70か国にわたる3Mの事業活動とほぼ全ての国で販売する製品に世界的なインパクトをもたらします。また、お客様がサステナビリティ目標を達成するのにも役立ちます。これは明日をもっと豊かにするためにサイエンスを活用するという私たちの志のもと、私たちが一歩前進することを意味します——私たちの戦略的サステナビリティフレームワークを通じ、また4つの各ビジネスグループを通じて進む一歩です。最も重要なのは、この新たな新製品の要件が3Mの社員にインパクトを与えることです。3Mで働くことで、社員たちは世界に変化を起こしています。

2019年 売上高
321億ドル[※]



※4つのビジネスグループの他に、321億ドルにはデュアルクレジットの除外とコーポレートセグメント及び非配賦ビジネスセグメントが含まれています。

セーフティ&インダストリアル

工業系のパフォーマンスを向上 —— より良く、より安全に、コネクティッド

私たちのビジネスの注力分野

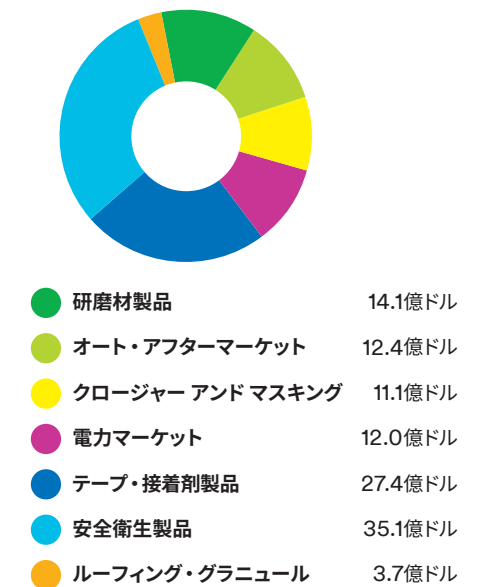
当社のセーフティ&インダストリアルビジネスグループは何千もの革新的なソリューションと製品を提供しています。作業着、材料、機械をデータソースとデジタル的に繋げることで得られるデータを活用することで、お客様の生産性と品質結果の改善に寄与しています。私たちの製品は3Mのサイエンスを活用して世界中の作業者の健康と安全を守るお手伝いをしています。

日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ コンクリート保水養生テープ 2227HP, 2227HPW
- 3M™ コンクリート給水養生用水搬送シート 1117
- 3M™ キュービットロン™ II フックイット™ クリーンサンディングフィルムディスク 775L
- 3M™ PST端末-EM T6PSシリーズ



2019年 売上高
116億ドル



トランスポーターション&エレクトロニクス

高度交通システムとコネクティッドな世界

私たちのビジネスの注力分野

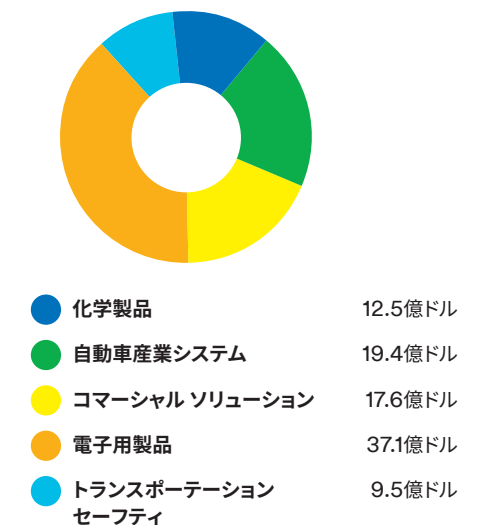
当社のトランスポーターション&エレクトロニクスビジネスグループはお客様の不可能を可能にする取り組みをお手伝いします。当社社員は、お客様が最も困難な問題を解決することに役立つ新たな用途とテクノロジーを開発することでイノベーションを主導しています。私たちは、データセンター、送電系統の近代化、自動車の電装化など、エレクトロニクスの新たな高成長市場セグメントに新規のプラットフォームを構築する動きの最先端で活動しています。都市、家、車、人に動力を与えて繋げるソリューションを創造し、必要なところはどこでも——データへのリアルタイムアクセスを提供します。

日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルム マルチレイヤー NANO シリーズ
- 3M™ スコッチカル™ ペイントフィルム
- 3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート (広角プリズム型フルキューブ)
- 3M™ グラスバブルズ
- 3M™ 液晶用輝度上昇フィルム DBEFシリーズ
- 3M™ 導電エンボスキャリアテープ



2019年 売上高
96.0億ドル



ヘルスケア

3Mサイエンスの力を用いて、世界中の人々の健康改善が可能になるよう支援

私たちのビジネスの注力分野

当社のヘルスケアビジネスグループは、課題を解決し健康改善を可能にするため、人、インサイト、サイエンス、テクノロジーを結びつけます。お客様が世界中の人々の健康を守り、改善することを可能にする実用的で実績に基づくソリューションを提供します。

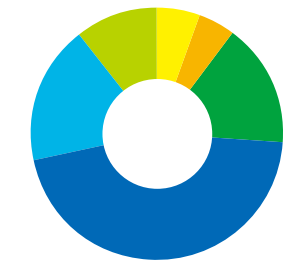


日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- 3M™ ペトリフィルム™ 培地
- 3M™ LifeASSURE™ 除菌用PESメンブレンフィルターカートリッジ BNAシリーズ
- 3M™ プリサイズ™ スキン ステイプラー S
- サージカルドレープ

2019年 売上高

74.3億ドル



● 医療用製品	34.1億ドル
● 歯科用製品	13.2億ドル
● フィルター製品	7.9億ドル
● ヘルスインフォメーションシステム	11.8億ドル
● ドラッグデリバリー	4.1億ドル
● フードセーフティ製品	3.4億ドル

コンシューマー

消費者の心に3Mを届ける

私たちのビジネスの注力分野

当社のコンシューマービジネスグループは、ポスト・イット®、スコッチ®、スコッチ・ブライツ™、フィルタレット™、ネクスケア™、コマンド™、フツロ™を含む3Mを象徴する主要ブランドを取り扱っています。これらの製品は、自宅や事務所の整理整頓をシンプルにし、暮らしを楽に、効率化します。幅広く様々な革新的な製品は、お客様がより健康で活発となるよう支え、家を清潔に、オフィスを整理整頓し、ビルの保守が行き届くよう支援します。

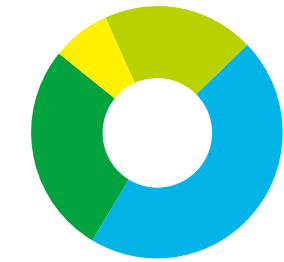


日本におけるサステナビリティの例：
環境ソリューション製品

- スコッチ® メンディングテープ
- スコッチ® スティックのり
- ポスト・イット® ノート／ふせん 再生紙シリーズ まるごと再生紙キューブ
- エーワン™ ラベルシール【プリンタ兼用】再生紙・ホワイト

2019年 売上高

50.9億ドル



● コンシューマー ヘルスケア	3.8億ドル
● ホームケア	9.9億ドル
● ホームインブルースメント	23.1億ドル
● 文具・オフィス	13.7億ドル

環境ソリューション製品

「環境ソリューション製品」は、全ての製品に適用している3M独自のマネジメントツールであるLCM（ライフサイクルマネジメント）をベースとし、環境負荷を徹底的に検証し、顧客価値の向上にあらゆる角度から取り組んでいます。

次のいずれかの条件を満たすものを「環境ソリューション製品」としています。

1. お客様の使用段階や廃棄の段階で環境負荷を削減するもの（お客様での環境負荷削減）
2. 原材料の節約や製造・輸送工程の見直しなどにより、製品の環境負荷を削減したもの（3Mでの環境負荷削減）

注：「環境ソリューション製品」はあくまで自社の定義によるものです。厳密には、「環境ソリューション製品」になりうる細かな必須な条件があり、上記文言はあくまでそれを簡潔に表現したものです。

3Mジャパングループサステナビリティのホームページ http://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/sustainability-jp/

1 電気・電子用途 環境ソリューション製品 代表例

3M™ 液晶用輝度上昇フィルムDBEF シリーズ



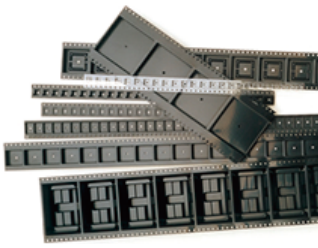
反射型偏光技術に基づく光学フィルムです。その多層薄膜構造により、バックライトの光を液晶パネルの下側偏光フィルムに吸収させることなく、また視野角を妨げることなく液晶画面を明るくします。結果として光利用効率が高まるので、フィルムがない状態に比べて同一輝度条件では消費電力を下げることができます。

環境メリット：液晶テレビのバックライト効率を32%から52%改善することにより消費エネルギーを23～37%削減します。
注：本製品は、主に液晶ディスプレイバックライト用途などの工業製品向けに販売をしております。一般市場への販売は行っておりませんので予めご了承下さい。

WEB： <http://www.mmm.co.jp/display/>

環境に ⊕	● 消費電力を削減
性能に ⊕	● 液晶画面の輝度上昇

3M™ 導電エンボスキャリアテープ



ポリカーボネート樹脂を使用したエンボスキャリアテープ。強度・耐熱性に優れ、成形寸法も安定しています。このような特性を生かし、薄膜化（200μm以下※）に対応可能です。※ポケット寸法により制約があります。

環境メリット：当社製造工程の端材を再利用します。また強度に優れるポリカーボネートを使用しているため薄膜化が可能であり、原材料の使用量を削減できます。

TEL：0570-012-321（ナビダイヤル）

WEB： https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/company-jp/all-3m-products/?N=5002385+8710652+8711017+8720872+8739616+3294803017&rt=r3

環境に ⊕	● 再生材利用 ● 原材料使用量削減
性能に ⊕	● 薄膜化に対応

3M™ PST 端末 - EM T6PS シリーズ



電力ケーブル接続用製品で、常温収縮工法（Pre-Stretched Tube）のメリットを最大に生かし、最小限の部材構成で大幅な施工時間の短縮を実現。耐火（FPT）ケーブル適用の選定も簡単に行えます。

環境メリット：キット構成材料のハロゲンフリー、鉛フリー化をはかり、エコケーブル（EMケーブル）にも使用可能。

TEL：0570-012-321（ナビダイヤル）

WEB： https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/power-distribution-jp/

環境に ⊕	● ハロゲンフリー、鉛フリー ● エコケーブル（EMケーブル）にも使用可
性能に ⊕	● 簡単施工 ● 幅広い品揃え ● 耐トラッキング性

3M™ コンクリート保水養生テープ2227HP, 2227HPW



型枠を取り外した直後のコンクリート表面に貼り付けることで、ひび割れを抑止し、コンクリート表面の緻密化を実現します。そのまま3ヶ月間貼った後も、糊残りがなく容易に剥がすことが可能です。

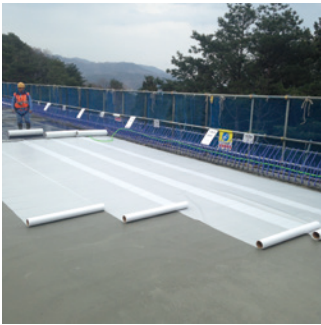
環境メリット：カーボン・オフセットを適用し、J-Ver（オフセット・クレジット制度）の認証を取得しました。グリーン購入法でも推奨されています。

TEL：0570-011-511（ナビダイヤル）

WEB：http://www.mmm.co.jp/tape-adh/construction/concrete/index.html

環境に 	- カーボン・オフセット認証品 - 散水養生によるアルカリ汚染水対策不要
性能に 	- クラック抑止と緻密化による耐久性向上・長寿命化 - 国土交通省NETIS登録

3M™ コンクリート給水養生用 水搬送シート1117



床版などの水平面のコンクリート硬化時に敷設するだけで、毛細管現象により動力を用いず水を搬送し、コンクリートの均一な養生を実現します。

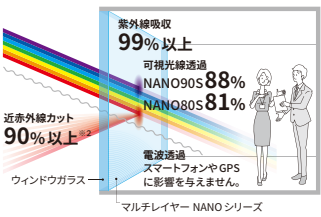
環境メリット：湿潤状況を目視で確認できるので、養生水の供給量を抑制でき、アルカリ汚濁水を低減できます。当社検証では約80％を抑制できました。また、シートの厚みは0.4mmと非常に薄く、従来用いられてきた一般的な養生用マットに比べ廃棄物の削減が可能で、当社試算では1/10（質量ベース）となります。

TEL：0570-011-511（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/company-jp/search/?Ntt=1117

環境に 	散水養生によるアルカリ汚染水対策
性能に 	- 均一性と緻密化による耐久性向上・長寿命化 - 国土交通省NETIS登録

3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルム マルチレイヤーNANO シリーズ



近紫外線カット90％以上は
NANO40S/70S/80Sの値
※記載の値は2018年現在の測定値

マルチレイヤーNANOシリーズは、日射に対する高い遮熱性とガラスに近い自然な外観を合わせ持つフィルムです。200層を超える積層構造を持ち、緻密にコントロールされた各層の厚みと屈折率により、近赤外線領域の波長の透過を集中的にカットします。これにより、日射から受ける真夏のジリジリとした不快な暑さが軽減され、窓際の快適性が向上します。

環境メリット：環境省のグリーン購入法適合製品です。グリーン購入法適合製品（NANO40S/NANO70S/NANO80S）環境省環境技術実証事業ヒートアイランド対策技術登録製品（NANO40S/NANO70/NANO80S）

TEL：0570-012-123（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/building-window-solutions-jp/solutions/

環境に 	- グリーン購入法適合製品(NANO40S/70S/90S) - ヒートアイランド対策技術登録製品
性能に 	- 高透明性と日射遮蔽性 - ガラス飛散防止

3M™ スコッチカル™ ペイントフィルム



3M™ スコッチカル™ ペイントフィルムは、コンクリートのような凹凸下地の壁面・床面へ直接施工できるフィルムです。塗装より早く簡単な施工を実現し、フルカラーでの美しいグラフィックスで新しいビジュアルコミュニケーションの可能性を拡大します。

環境メリット：塗装と比較して溶剤の使用が少なく、またフィルムのため溶剤臭がありませんので、周囲への環境に配慮できます。

TEL：0570-012-123（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/company-jp/all-3m-products/?N=5002385+8706041+87110674+8711017+8720084+3294803017&rt=r3

環境に 	- 溶剤使用の削減 - 溶剤臭がないので、近隣への配慮が最小限に抑えられる
性能に 	- 塗装で必要な下書き工程や乾燥工程が不要で、作業時間の短縮化が可能 - 塗装では困難だった写真表現やグラデーションも可能



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG³ 超高輝度反射シート（広角プリズム型フルキューブ）



より見やすい道路標識を環境に配慮した製品設計で高齢化社会に対応した、明るく見やすい超高輝度反射シートです。従来の道路標識に使用されてきたカプセルレンズ型反射シートは反射素子にガラスビーズを使用していますが、本製品は高精細プリズムカットを施したフルキューブプリズムを反射素子に採用しており、約4倍の反射性能と広角性能を発揮します。

環境メリット：12年の耐久性を有し、カプセルレンズ型と比較して製品のライフサイクルで発生するCO₂を約40％削減*、製造工程・標識製作工程も大幅に短縮できます。今日主流の道路標識用反射シートです。※ 2004年のデータに基づく

TEL：0570-012-123（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/road-safety-jp/

環境に 	- 有機溶剤削減 - ライフサイクルCO₂を約40％削減* - 外部照明が不要 - 標識板製作時省エネルギー
性能に 	- 反射性能大幅向上 - 約12年の耐久性

3M™ キュービトロン™ IIフックイット™ クリーンサンディング フィルムディスク 775L



3Mが研究開発した「精密成型セラミック砥粒」を垂直にオープン構造で配列したサンディングディスクです。初期の切れ味そのままに目詰まりしづらく最後まで研磨が可能です。

環境メリット：長寿命なので、研磨ディスクの廃棄量を削減できます。また、吸塵タイプのサンダーを使えば空気中に飛び散る粉塵が減少し作業環境の改善にも寄与します。

TEL：0570-011-211（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/cubitronII-jp/

環境に 	- 長寿命で廃棄ディスク削減 - 吸塵サンダーとの併用で作業環境改善
性能に 	- 初期の切れ味が持続 - きれいな仕上がり

3M™ LifeASSURE™ 除菌用 PES メンブレンフィルターカートリッジBNAシリーズ



ポリエーテルスルホンメンブレン製の耐久性の高い除菌用メンブレンフィルターカートリッジ。独自のAdvanced Pleat Technologyによる大きな過面積とフローディストリブーション構造により、ロングライフ、低圧力損失、高流量の特性により、ユーザーのフィルターコスト低減を実現します。

環境メリット：飲料の熱殺菌に替わる微生物コントロール。熱エネルギー低減。

TEL：0570-011-211（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/company-jp/all-3m-products/?N=5002385+87110655+8711017+3294803017&rt=r3

環境に 	飲料・ビールなどの熱殺菌工程に替わり微生物コントロールでき、熱源・CO₂削減
性能に 	- ロングライフ - 低圧力損失 - 高流量

3M™ グラスバブルズ



粒子の大きさ16 ～ 65μm (50%粒子径)のガラス微小中空粉体。真球で充填率が高く、各種材料に添加することで、軽量化をはじめ、断熱性、比誘電率低減などの高機能化を実現できます。

環境メリット：少量の添加で大幅な軽量化を実現でき、車両燃費向上に貢献できます。部品成形時の熱容量を下げることで成形サイクルを改善し使用エネルギーを削減できます。

TEL：0570-022-123（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/design-and-specialty-materials-jp/

環境に 	樹脂などに添加して軽量化を実現でき、車両燃費向上
性能に 	- 遮熱性 - 寸法安定性

3M™ ペトリフィルム™ 培地



食品衛生の総合管理に環境負荷の低減を。3M™ ペトリフィルム™ 培地は、食品衛生分野での品質管理の標準化・効率化を図り、人件費や廃棄費用、スペースの削減により総費用の削減が可能です。

環境メリット：通常シャーレを使用した場合に比べ、75%（当社実験比（2016年現在））もCO₂の排出が削減できます。従ってトータルコストも削減できます。

TEL：0570-011-321（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/food-safety-jp/

環境に	● 廃棄時のCO ₂ 削減
性能に	● 作業の標準化 ● 効率化 ● 高い信頼性

3M™ プリサイズ™ スキンステイプラー S



患者様の傷口を閉じる医療用ツールです。人間工学に基づいたデザインで操作性と確実性を追求し、医師の負担を軽減します。（2012年度グッドデザインに選ばれました。）

環境メリット：原材料樹脂使用量を約49%削減することにより、医療廃棄物量を約43%削減しました。

TEL：0570-011-321（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/medical-jp/

環境に	● 医療廃棄物量削減
性能に	● 人間工学に基づいたデザイン ● 軽量・コンパクトな本体 ● 針詰りを最小限にする機能

サージカルドレープ



不織布製の手術用滅菌ドレープです。手術中の液体や微生物の透過を防ぎ、清潔野の汚染を抑え、手術部位感染のリスク低減に寄与します。

環境メリット：不織布原材料の一部を、石油由来の原材料から植物由来の原材料に変更しました。これにより、製造の際の石油由来成分の使用量を減らし、CO₂排出量の軽減など環境負荷の低減を目指します。

TEL：0570-011-321（ナビダイヤル）

WEB：https://www.3mcompany.jp/3M/ja_JP/medical-jp/surgicaldrape/

環境に	● CO ₂ の排出量削減に寄与
性能に	● 防水性 ● 吸水性 ● 難燃性 ● 低リント性（脱落繊維が少ない）

スコッチ® メンディングテープ



アセテートフィルムを採用したハイクオリティな粘着テープです。貼るとテープがほとんど見えなくなり、上質な仕上げ感です。

環境メリット：テープ基材に植物由来の材料を使用し、巻芯径76mmの紙管原紙には再生紙を使用しています。

TEL：0120-510-333

WEB：https://www.scotch.jp/3M/ja_JP/scotch-brand-jp/

環境に	● テープ基材は植物由来（バイオマスマーク） ● 巻芯径76mmの紙管原紙には再生紙を使用（グリーンマーク）
性能に	● コピーを取っても影が出ない ● テープの上から字が書ける

スコッチ® スティックのり



書類の貼り付け、封かんなどの事務作業を効率的にします。タイプは3種。しっかり貼れる「スティックのり」。仮止めや切り貼り作業に「はってはがせるスティックのり」。塗り位置がわかる紫色の「カラースティックのり」。乾くと透明になります。

環境メリット：容器に70%再生プラスチックを使用。包装容器による環境負荷を削減しています。

TEL：0120-510-333

WEB：https://www.scotch.jp/3M/ja_JP/scotch-brand-jp

環境に	● エコマーク認証品 ● 容器に70%再生プラスチックを使用
性能に	● 作業の効率化

ポスト・イット® ノート／ふせん 再生紙シリーズ まるごと再生紙キューブ



古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用。パッケージにはダンボールを使用し、全てを再生紙で作っています。

環境メリット：この製品は古紙パルプ配合率100%の再生紙でできており、また、リサイクル可能です。

TEL：0120-510-333

WEB：https://www.post-it.jp/3M/ja_JP/post-it-jp/

環境に	● 古紙パルプ配合率100%の再生紙
性能に	● 各色とりそろえ

エーワン™ ラベルシール【プリンタ兼用】再生紙・ホワイト



ラベルシール・台紙共に古紙パルプ配合率70%の再生紙を使用しているラベルシールです。インクジェットプリンタ、レーザープリンタなど、様々なプリンタで印刷することができます。

環境メリット：古紙パルプ70%の再生紙を使用。台紙は樹脂ラミネート加工をしていないので、古紙として分別できます。

TEL：0120-112-621

WEB：https://www.3mcompany.jp/office

環境に	● 古紙パルプ70%の再生紙 ● リサイクルできる台紙
性能に	● 台紙からラベルがはがしやすい

3M、スコッチ・ブライト、スコッチティント、Vflex、クリンプロ、ポスト・イット、キュービトロシ、フックイット、スコッチカル、ダイヤモンドグレード、ペトリフィルム、LifeASSURE、プリサイス、スコッチ、フィルタレット、ネクスケア、コマンド、フツロ、エーワンは、3M社の商標です。



3Mジャパングループ

<http://www.mmm.co.jp/sustainability/>

© 3M 2020. All Rights Reserved.

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで



0570-022-123

9:00～17:00 / 月～金 (土日祝年末年始は除く)